

決算特別委員会総務文教分科会

令和4.9.15（木）午前10時30分

令和4.9.16（金）午前10時

令和4.9.20（火）午前10時

令和4.9.21（水）午前10時

令和4.9.22（木）午前10時

場所： 第3委員会室、全員協議会室

1 開会

2 付託議案審査（説明～質疑）

- (1) 令和3年度亀岡市一般会計決算認定について（第12号議案所管分）
- (2) 令和3年度亀岡市曾我部山林事業特別会計決算認定について（第18号議案）
- (3) 令和3年度各財産区特別会計決算認定について（第22号議案～第51号議案）

報告 「健全化判断比率及び資金不足比率の状況」

3 事務事業評価

- (1) 生涯学習推進経費
(ガレリアかめおか指定管理料・ガレリアかめおか長寿命化対策工事・
ガレリアかめおか長寿命化対策工事監理業務委託)
- (2) 交通安全対策経費（高齢者運転免許証自主返納支援事業）
- (3) 学校運営経費（選択制デリバリー弁当実施経費）

4 討論～分科会採決

5 委員長報告の確認

6 その他

人権啓発協議会への助成金等について

団体名	活動内容	R3助成額（円）	主な支出項目
<p>亀岡市人権啓発推進協議会</p>	<p>広く人権教育・啓発活動を推進し、市民一人ひとりの人権意識を高めることにより、「人権尊重」のまちづくりを進める。</p>	<p>1,179,660</p> <p>(その他歳入) 協議会加入32団体 (企業部会)からの 運営協力金 160,000</p>	<p>啓発資料作成費 139,740</p> <p>市内各地区協議会（7団体）への地域啓発活動費 695,000</p> <p>啓発資料費 391,280</p>
<p>人権擁護施策推進・要求 亀岡市実行委員会</p>	<p>すべての人権問題を解決するための諸施策を講じるよう政府及び国に働きかけを行うとともに、人権を擁護するための施策の重要性を訴える諸活動に取り組む。</p>	<p>332,078</p>	<p>京都府実行委員会への分担金 30,000</p> <p>国会議員への要請行動費 31,270</p> <p>各種研修参加費 250,030</p>
<p>園部人権擁護委員協議会 ※亀岡市、南丹市、船井郡の区域に属する人権擁護委員で組織</p>	<p>人権擁護委員の職務に関する連絡調整。</p> <p>人権擁護委員の職務に関し必要な資料、情報の収集。</p> <p>人権擁護委員の職務に関する研究、意見の発表。</p> <p>人権擁護上必要がある場合は関係機関に対し意見を述べる。</p> <p>人権擁護上必要と認める事項を行う。</p>	<p>286,000</p> <p>(その他歳入) 他市からの助成額 南丹市 232,000 京丹波町 137,000</p>	<p>京都府連への負担金等 89,100</p> <p>啓発活動費 323,830</p> <p>事務費 200,352</p>

令和3年度
かめおか霧の芸術祭

事業実績報告書

2017年度に始動したかめおか霧の芸術祭は、2018年度の「KIRI CAFE」オープンやキックオフイベントを皮切りに本格的にスタートしました。

2019年度からは「かめおか霧の芸術祭×X」として、アート×環境、アート×農業、アート×商工観光など芸術祭をハブとした取組が始まりました。

2020年度は、亀岡市が内閣府からSDGs未来都市に選定され、さらには「かめおか霧の芸術祭×X」の取組が自治体SDGsモデル事業に選定されたことを受け、SDGsの推進も視野に入れながら各取組を進めました。

2021年度は、SDGsの拠点として新たに整備した「開かれたアトリエ」を活用し、様々な事業を実施しました。また、大本本部、亀岡市文化資料館、開かれたアトリエ、みずのき美術館の4会場で「霧の芸術館」を開催するなど、新型コロナウイルス感染症の状況をふまえながら事業を行いました。

	事業名
文化芸術 プロジェクト	(1-1) 開かれたアトリエ ① 情報発信収集コーナー ② 資材循環コーナー ③ 開かれたアトリエ展覧会 ④ 開かれたアトリエ図書コーナー ⑤ KIRI ² 芸術大学 ⑥ ボンボンマルシェ ⑦ 対話プロジェクト だれかとはひふへほの会 ⑧ 食プロジェクト ⑨ アトリエこどもプロジェクト ⑩ KIRI WISDOM (キリ ウィズダム) ⑪ こどもみんげいプロジェクト ⑫ オーストリアのクリスマス
	(1-2) 霧の芸術館
	(1-3) 教育プログラム ① こども漆体験プロジェクト ② 南丹高校プロジェクト ③ 亀岡高校プロジェクト ④ かめおかこども霧の芸術祭 (絵画で学ぶPJ)
	(1-4) キャンドルナイト
KIRICAFE 関連プロジェクト	(2-1) KIRI ² 芸術大学
	(2-2) WORLD CIVIC TOUR
	(2-3) こどもみんげいプロジェクト
農×アートプロジェクト	(3) 亀岡産農産物の新しい魅せ方プロジェクト
SDGs啓発プロジェクト	(4) オーガニックライフスタイルEXPO
環境×アートプロジェクト	(5) 給水スポットサイン製作

【文化芸術プロジェクト】

(1-1) 開かれたアトリエ

内閣府から自治体 SDGs モデル事業に選定されたことを受けて交付された補助金を活用して、市役所地下に令和 3 年 4 月に整備された「開かれたアトリエ」も活用して事業を実施しました。

① 情報発信収集コーナー

市内外の情報を収集できるコーナーを開かれたアトリエに設けています。無料で入手できる冊子には、いろいろなヒントがたくさん潜んでいます。

② 資材循環コーナー

アーティストのアトリエなどで生じた端材などを使って、自由にものを作ったり資材を持って帰ることができるコーナーです。親子で休日に工作をする人や置いてある色紙で折り紙をしたり、家にある資材を持ってくる方もおられます。

③ 開かれたアトリエ展覧会

ブックP10

「開かれたアトリエ」を会場に3つのテーマで展覧会を開催しました。

- ・土と種 2021年6月21日(月)～8月1日(日)
- ・農と林 2021年10月4日(月)～11月28日(日)
- ・街と巡 2022年1月15日(土)～2月10日(木)

④ 開かれたアトリエ図書コーナー

ブックP14

「開かれたアトリエ」の図書コーナーは、アーティストが季節ごとにテーマを決めて選書した本が並んでいます。テーマに沿った展示やワークショップ、読み聞かせなども実施しました。

- ・土と種 2021年4月14日(水)～8月1日(日)
- ・音 2021年8月2日(月)～10月29日(金)
- ・霧 2021年11月1日(月)～1月31日(月)
- ・衣 2022年2月1日(金)～4月30日(土)

⑤ KIRI² 芸術大学

ブックP22

亀岡ゆかりのアーティスト、職人、農家等を講師に招いて、亀岡ならではの講座を新型コロナウイルスの状況を考慮しながら比較的少人数で開催しました。

⑥ ボンボンマルシェ

ブックP18

開かれたアトリエを会場に、循環をテーマに新しい形のマルシェを開催しました。

vol.1	2021年7月25日(日)	500人
vol.2	2021年11月28日(日)	300人
vol.3	2022年3月6日(日)	600人

⑦ 対話プロジェクト だれかとはひふへほの会

ブックP28

第1回「国際平和映像祭」受賞作品を見よう	2021年10月29日(金)
第2回映画「ビッグリトルファーム」を見よう	2021年11月26日(金)
第3回少し深く話してみよう	2021年12月22日(水)
第4回教育ってなんだろう?	2022年2月25日(金)

⑧ 食プロジェクト

ブックP29

開かれたアトリエ横でレストランを運営しているアトリエカフェとも連携して、食を通してSDGsを考える企画を実施しました。

・春ニンジンのポタージュ	2021年5月15日～
・じゃがいもの冷製ポタージュ	2021年8月25日～

⑨アトリエこどもプロジェクト

ブックP36

「紙をつくる実験室」と題していろいろな素材を使って紙を自分で作る体験をこどもたちにしてもらいました。 2021年10月24日(日)

⑩ KIRI WISDOM

ブックP26

- | | | |
|----|---------------------|----------------|
| 1 | 開かれたアトリエから閉じた世界へ1 | 2021年4月17日(土) |
| 2 | 亀岡という舞台に生まれる作品や風景 | 2021年5月26日(水) |
| 3 | カラダの中に記憶する身体と道具の使い方 | 2021年6月30日(水) |
| 4 | 皿の上の記録とブータンの日常 | 2021年7月30日(金) |
| 5 | 食材と遊び戯れるためのレシピ | 2021年9月24日(金) |
| 6 | リアルに対する渴望 | 2021年10月2日(土) |
| 7 | 子どもたちに引き継ぐ知恵 | 2021年11月29日(月) |
| 8 | 開かれたアトリエから閉じた世界へ2 | 2021年12月29日(水) |
| 9 | 不安」と「安全」 | 2022年3月19日(土) |
| 10 | 祭りから知るハレとケ | 2022年3月26日(水) |

⑪ こどもみんげいプロジェクト

ブックP37

- | | | | |
|-----|----------|---------------|-------------|
| 第1回 | 野菜の型どり大会 | 2022年2月5日(土) | @開かれたアトリエ |
| 第2回 | うつわづくり大会 | 2022年3月12日(土) | @KIRICAFEの畑 |
| 第3回 | うつわづくり大会 | 2022年3月13日(日) | @KIRICAFEの畑 |
- ※KIRICAFE 関連プロジェクトと重複

⑫ オーストリアのクリスマス

ブックP40

亀岡市の姉妹都市クニッテルフェルト市やホストタウン事業を通して交流のあるオーストリア出身のマックスさんと現地のクリスマス文化を体験するイベントを開催しました。
2021年12月11日(土) @開かれたアトリエ

(1-2) 霧の芸術館

ブックP42~

2022年1月15日(土)~30日(日) 入場料 500円(販売実績460枚)

	来場者数 (人)
亀岡市文化資料館	524
大本本部(みろく会館・春陽閣)	488
開かれたアトリエ	1,030
みずのき美術館	325
計	2,367

(1-3) 教育プログラム

① こども漆体験プロジェクト

ブックP32

吉川小学校 3~6年生	25人	2021年11月15日(月)
曾我部小学校 4年生	31人	2021年11月26日(金)
畑野小学校 1~6年生	37人	2021年12月17日(金)

② 南丹高校プロジェクト

ブックP35

南丹高校3年生の生徒と一緒に、アーティストが総合学習の時間に様々な個人ワークやチームワークを行いました。

③ 亀岡高校プロジェクト

ブックP34

かめおか霧の芸術祭のアーティストとの交流を通じて得たアイデアや刺激をもとに、亀岡高校美術部生徒が制作した作品を展示しました。

2022年2月13日(日)~26日(土) @開かれたアトリエ

④ かめおかこども霧の芸術祭(絵画で学ぶPJ)

ブックP33

2020年度のかめおか霧の芸術祭で展示された絵画をデジタルデータ化して、小中学校の児童生徒がタブレットを使って彩色するプロジェクトを実施しました。

企画運営：亀岡市みらい教育リサーチセンター

- ・開かれたアトリエでの展示 2022年3月4日(金)~6日(日)
- ・YUKO KIMOTO講演会 2022年3月5日(土)
- ・参加学校

安詳小学校	3年生
東別院小学校	4・5・6年生
曾我部小学校	5年生
別院中学校	文化部
南桑中学校	美術部

(1-4) キャンドルナイト

ブックP39

京都信用金庫と協働で、かめきたサンガ広場で気球をキャンドルに見立てたイベントを開催しました。 2021年12月19日(日)

【KIRICAFE 関連プロジェクト】

KIRI CAFE

かめおか霧の芸術祭の拠点施設として整備した KIRI CAFE（千歳町毘沙門）は、一般社団法人きりぶえがカフェとして運営しているほか、かめおか霧の芸術祭実行委員会が霧の芸術祭に関連する展覧会やトークイベント、ワークショップなど多目的に利用する中で、市内外から多くの人々が出会い、交流する場になっています。

来店者数 1,805 人（2021 年 4 月～2022 年 3 月 うち 5 月はコロナで休業）
※昨年度比 △272 人

（2－1）KIRI² 芸術大学

ブック P 25

KIRICAFE を教室として活用し、亀岡ゆかりのアーティスト、職人、農家等を講師に招いて亀岡ならではの講座をコロナを考慮し各回を少人数で開催しました。

（2－2）WORLD CIVIC TOUR

ブック P 31

第 1 回	K-POP で再発見 韓国	2021 年 4 月 17 日（土）
第 2 回	四川の旅	2021 年 6 月 26 日（土）
第 3 回	ポルトガルの風	2021 年 7 月 31 日（土）
第 4 回	ライスバレー収穫祭	2021 年 10 月 23 日（土）
第 5 回	日本のお米	2021 年 11 月 23 日（土）
第 6 回	クリスマスパーティー	2021 年 12 月 25 日（土）

（2－3）こどもみんげいプロジェクト

ブック P 37

第 1 回	野菜の型どり大会	2022 年 2 月 5 日（土）	@開かれたアトリエ
第 2 回	うっわづくり大会	2022 年 3 月 12 日（土）	@KIRICAFE の畑
第 3 回	うっわづくり大会	2022 年 3 月 13 日（日）	@KIRICAFE の畑

※文化芸術プロジェクトと重複

【農×アートプロジェクト】

(3) 亀岡産農産物の新しい魅せ方プロジェクト

ブックP38

担当 辰巳雄基

協力 小林舞（京都大学経済学研究所特定助教、一般社団法人FEAST）

亀岡市農林振興課からの受託事業として「10年後の旭町 なごみの里あさひについて考える」と題し、地元の人々とともに未来につながるキーワードを話し合い、考えてもらいました。

- | | | |
|---|----------------|-------------|
| ① | なごみの里あさひのスタッフ | 2021年11月17日 |
| ② | 旭町で農業をするベテラン農家 | 2021年12月17日 |
| ③ | 旭町で農業をする若手農家 | 2022年1月27日 |
| ④ | 旭町自治会役員 | 2022年2月15日 |
| ⑤ | 旭町在住の子どもと親 | 2022年3月5日 |

【SDGs 啓発プロジェクト】

(4) オーガニックライフスタイル EXPO 2021

亀岡市 SDGs 創生課からの受託事業として、東京都で開催されたオーガニックライフスタイル EXPO2021 において、亀岡市の先進的な環境施策やオーガニックへの取組などを発信しました。

実施日 2021年9月16日（木）～18日（土）

場所 東京都立産業貿易センター浜松町館

主催者 一般社団法人オーガニックフォーラムジャパン

来場者 10,406人（3日間合計）

出展者数 204社



【環境×アートプロジェクト】

(5) 給水スポットサイン製作

ブックP39

亀岡市環境政策課からの受託事業として、ペットボトル削減を推進するために亀岡市が進めている「いつでも、どこでも亀岡のおいしい水プロジェクト」で使用するサイン製作を行いました。

生地は京都ほづ藍工房に協力いただいて「ほづ藍染め」で製作しています。



かめおか霧の芸術祭実行委員会
2021年度収支決算書

○収入

(単位：円)

費目	予算額 A	決算額 B	差引 B-A	備考
補助金	21,830,000	21,830,000	0	文化芸術振興・発信事業補助金 [京都府] 830,000 文化芸術事業補助金 21,000,000
委託料	4,023,000	2,076,000	△ 1,947,000	亀岡産農産物の魅せ方提案業務委託料 300,000 SDGs啓発プロジェクト 1,353,000 給水スポットサイン製作業務委託料 423,000
諸収入	570,000	538,839	△ 31,161	霧の芸術館チケット 230,000 KIRI ² 芸術大学運営負担金 308,839
計	26,423,000	24,444,839	△ 1,978,161	

○支出

(単位：円)

費目	予算額 A	決算額 B	差引 B-A	備考
文化芸術 プロジェクト 別紙1	20,450,000	20,074,678	△ 375,322	○開かれたアトリエ企画 4,971,213 ○霧の芸術館 5,527,019 ○漆体験プロジェクト 420,000 ○教育プロジェクト 613,510 ○こどもみんげいプロジェクト 629,200 ○キャンドルナイト 271,990 ○事業運営経費 5,127,236 ○広報啓発経費 2,514,510
KIRI CAFE 関連プロジェクト 別紙2	1,950,000	1,841,250	△ 108,750	○KIRI CAFE経費 801,300 ○KIRI CAFE関連企画 1,039,950
農業×アート プロジェクト 別紙3	300,000	300,000	0	○農業×アート 300,000
SDGs×アート プロジェクト 別紙3	3,300,000	1,353,000	△ 1,947,000	○SDGs啓発プロジェクト 1,353,000
環境×アート プロジェクト 別紙4	423,000	423,000	0	○給水スポットサイン製作 423,000
計	26,423,000	23,991,928	△ 2,431,072	

(収入－支出) 24,444,839－23,991,928＝452,911円を令和4年度に繰り越し

文化芸術プロジェクト

○収入

(単位：円)

費目	予算額 A	決算額 B	差引 B-A	備考
補助金	20,000,000	20,000,000	0	文化芸術事業補助金 20,000,000
諸収入	450,000	527,589	77,589	霧の芸術館チケット 230,000 KIRI ² 芸術大学運営負担金等 297,589
計	20,450,000	20,527,589	77,589	

○支出

(単位：円)

費目	予算額 A	決算額 B	差引 B-A	備考
文化芸術 プロジェクト	20,450,000	20,074,678	△ 375,322	○開かれたアトリエ企画 4,971,213
				アトリエ展覧会 1,175,930
				KIRI ² 芸術大学 565,000
				ボンボンマルシェ 966,812
				図書コーナー 915,170
				対話プロジェクト 330,000
				アトリエ食プロジェクト 316,960
				その他アトリエワークショップ等 701,341
				○霧の芸術館 5,527,019
				○漆体験プロジェクト 420,000
				○教育プロジェクト 613,510
				○こどもみんげいプロジェクト 629,200
				○キャンドルナイト 271,990
				○事業運営経費 5,127,236
				総合プロデューサー 1,000,000
				プロジェクトマネージャー 1,920,000
				その他スタッフ 1,120,000
				各種プログラム運営費用 1,087,236
				○広報啓発経費 2,514,510

KIRI CAFE関連プロジェクト

○収入

(単位：円)

費目	予算額 A	決算額 B	差引 B-A	備考
補助金	1,830,000	1,830,000	0	文化芸術振興・発信事業補助金 [京都府] 830,000 文化芸術事業補助金 1,000,000
諸収入	120,000	11,250	△ 108,750	KIRI ² 芸術大学運営負担金 11,250
計	1,950,000	1,841,250	△ 108,750	

○支出

(単位：円)

費目	予算額 A	決算額 B	差引 B-A	備考
KIRI CAFE関連 プロジェクト	1,950,000	1,841,250	△ 108,750	○KIRI CAFE経費
				賃料、駐車場借上、保険料 801,300
				○KIRI CAFE関連企画 1,039,950
				KIRI ² 芸術大学 185,000
				WORLD CIVIC TOUR 98,000
				こどもみんげいプロジェクト 653,400
消耗品等 103,550				

農業×アートプロジェクト

○収入

(単位：円)

費目	予算額 A	決算額 B	差引 B-A	備考
委託料	300,000	300,000	0	亀岡産農産物の魅せ方提案業務委託料 300,000
計	300,000	300,000	0	

○支出

(単位：円)

費目	予算額 A	決算額 B	差引 B-A	備考
農業×アートプロジェクト	300,000	300,000	0	○農産物の魅力化プロジェクト 企画費 168,000 事業運営経費 132,000

SDGs×アートプロジェクト

○収入

(単位：円)

費目	予算額 A	決算額 B	差引 B-A	備考
委託料	3,300,000	1,353,000	△ 1,947,000	オーガニックライフスタイルEXPO委託料 1,353,000
計	3,300,000	1,353,000	△ 1,947,000	

○支出

(単位：円)

費目	予算額 A	決算額 B	差引 B-A	備考
SDGs×アートプロジェクト	3,300,000	1,353,000	△ 1,947,000	○SDGs啓発プロジェクト オーガニックライフスタイルEXPOブース料 1,202,000 企画運営経費 151,000

環境×アートプロジェクト

○収入

(単位：円)

費目	予算額 A	決算額 B	差引 B-A	備考
委託料	423,000	423,000	0	給水スポットサイン製作 423,000
計	423,000	423,000	0	

○支出

(単位：円)

費目	予算額 A	決算額 B	差引 B-A	備考
環境×アートプロジェクト	423,000	423,000	0	○給水スポットサイン製作 タペストリー用生地製作 126,500 タペストリー製作 294,800 消耗品 1,700

亀岡市国籍別外国人人口

(令和4年6月30日現在)

	人口(人)	比率(%)
韓国又は朝鮮	348	31.7%
ベトナム	261	23.7%
中国	163	14.8%
フィリピン	72	6.6%
カンボジア	67	6.1%
インドネシア	24	2.2%
米国	21	1.9%
ミャンマー	18	1.6%
タイ	14	1.3%
インド	13	1.2%
その他	98	8.9%
合計	1,099	100.0%

市全体人口	87,305	
外国籍人口	1,099	1.3%

第44回京都府民総合体育大会選手派遣強化補助金【亀岡市】補助金内訳表

種目・種別	参加人数	亀岡市補助金						
		選手強化費			選手派遣費			計
		補助対象額	率	補助金	補助対象額	率	補助金	
バスケットボール男	0	0	0.3	0	0	0.4	0	0
バスケットボール女	0	0	0.3	0	0	0.4	0	0
バレーボール男	0	0	0.3	0	0	0.4	0	0
バレーボール女	0	0	0.3	0	0	0.4	0	0
卓球	8	56,000	0.3	16,800	15,840	0.4	6,336	23,136
ソフトテニス	16	0	0.3	0	24,320	0.4	9,728	9,728
テニス	16	112,000	0.3	33,600	56,960	0.4	22,784	56,384
軟式野球	20	140,000	0.3	42,000	35,600	0.4	14,240	56,240
ハンドミントン	0	0	0.3	0	0	0.4	0	0
ソフトボール男	0	0	0.3	0	0	0.4	0	0
ソフトボール女	0	0	0.3	0	0	0.4	0	0
サッカー	21	147,000	0.3	44,100	41,580	0.4	16,632	60,732
ボウリング	7	49,000	0.3	14,700	8,260	0.4	3,304	18,004
カートボール男	9	0	0.3	0	13,680	0.4	5,472	5,472
カートボール女	9	0	0.3	0	13,680	0.4	5,472	5,472
陸上競技	17	119,000	0.3	35,700	18,700	0.4	7,480	43,180
駅伝競技	0	0	0.3	0	0	0.4	0	0
グラウンドゴルフ	9	63,000	0.3	18,900	13,680	0.4	5,472	24,372
ゴルフ	0	0	0.3	0	0	0.4	0	0
ソフトバレー	0	0	0.3	0	0	0.4	0	0
卓球バレー	0	0	0.3	0	0	0.4	0	0
小計	132	686,000	0.30	205,800	242,300	0.4	96,920	302,720

訴訟事件着手金等の内訳

令和4年9月議会 決算特別委員会資料

事件名	裁判所	内訳	金額(円)	支払先
令和元年(行コ)第122号 京都スタジアム建設に関わる違法公金支出差止等請求控訴事件	大阪高裁	報酬金 実費	11,000,000 2,142	大江橋 法律 事務所
令和2年(行ヒ)第359号 損害賠償等請求行為請求上告受理申立事件	最高裁	報酬金 実費	1,980,000 1,114	
令和2年(ワ)第2274号 建物収去土地明渡等請求事件	京都地裁	実費	35,610	
令和3年(ネ)第2506号 建物収去土地明渡等請求控訴事件	大阪高裁	着手金	990,000	
		合計	14,008,866	

亀岡市 救急搬送データ分析(抜粋)

(2020年 外的要因による受傷)

外傷サーベイランス委員会資料

日本セーフコミュニティ推進機構

2021/11/25

目次

1. 亀岡市消防署救急搬送データの分析について	1
(1) 趣旨	
(2) データ分析の方法について	
2. 分析のまとめ	3
3. 救急搬送された受傷事例の分析（詳細）	9
(1) 救急搬送件数の概要	9
(2) 受傷者について	11
(3) 傷病程度	19
(4) 発生場所	20
(5) 事故種別	27
(6) 受傷機転	29
(7) その他	47

1. 亀岡市消防署救急搬送データの分析について

(1) 趣旨

本分析は、亀岡市が2006年から取り組んでいるセーフコミュニティ活動がコミュニティの安全にどのような影響を与えているかを測定・評価するため、また、地域の安全の状況を把握する安全診断のための基礎資料とすることを目的としている。

(2) データ分析の方法について

- 2020年1月～12月に亀岡消防が救急搬送の要請によって出動した事例のうち、外傷によるものを抽出し、セーフコミュニティ活動をはじめ亀岡市の安全・安心を向上させるうえで必要となる項目を選択した後、亀岡市に提出された。
- 外傷関連事例の抽出作業は亀岡消防署によって行われ、個人が特定されないよう個人情報は削除されたうえでexcel形式にて亀岡市に提供されている。
- 分析にあたっては、救急搬送記録の項目を最大限に活用している。ただし、受傷場所の詳細、外傷要因などについては、「事故等の内容」や「備考」にある記述をもとにキーワードをコーディングし、分析した。
なお、消防から提供いただいたデータの「発生場所区分」については、実際に受傷した場所ではなく、救急搬送対象者を確認した場所である。そのため、道路で受傷したのちに帰宅して救急搬送要請をした場合、「発生場所区分」は「道路」となっているため、「住宅」に変更している。こように「発生場所」と受傷場所が異なっていることが記述からわかる場合は「受傷した場所」を改めてコーディングしている。
- サンプルは受傷者の数であり、事故の発生件数ではない。つまり、1件の事故で受傷者が複数出た場合は、その全受傷者についてそれぞれに記録されている。
- 以前のデータと比較している場合について、これまでの分析結果を参考にしつつ、コーディングの方法や分類方法に修正・変更を加えている場合がある。
- クロス集計については、カイ二乗検定を行い、相関関係を確認している。表中の漸近有意率(両側)のPersonのカイ二乗の数値が「0.05」未満であれば、統計的には表頭と表側の項目は相互に関係がある(偶然ではない)。

2. 分析のまとめ

(1) 救急搬送件数の概要

- 今回、亀岡消防から外的要因による事故及びそれによる受傷として 1052 件の事例に関するデータを分析（20 件の「非該当」を除いた 1032 件）
- 該当しない（非該当）と判断した 20 件については、無理な頑張り以外での脱臼など外的要因以外の原因により搬送した場合、現地に到着したところ該当事案（事故や受傷者がいなかった）ではなかった場合、他隊による対応済みの場合である。
- 受傷がみられたものの本人が救急搬送を拒否したために救急搬送に至らなかった、あるいは、事故は発生したが受傷しなかった場合でも、その経緯や原因がわかるものについては「該当」とし分析対象とした。（表 1、表 2）
- これまで外的要因による救急搬送件数は 1150 件程度で推移しているが、2020 年は約 100 件減少している。これは、新型コロナウイルス感染拡大予防のための外出自粛や三密をさける行動により生活様式や行動が変わったことによる影響があると思われる。（表 1、表 2）

【年間の搬送件数の推移】

- 月ごとの搬送件数をみると、特に 4 月の搬送件数が大きく減少している。
→新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛等の対策が始まった時期に重なることから、生活様式の変化（外出自粛含む）が反映している可能性がある。（表 3）

【事故種別の傾向】

- これまで同様に「一般負傷」による搬送件数が最も多く、交通事故による受傷が減少傾向にある。（表 4、図 1）
- 変化が見られたのは、「自損行為」の増加と「労働災害」の減少であった。（表 4、図 1）
→自損行為については全国的にみられる自殺者数の増加、労働災害の減少については、労働を取り巻く環境の変化と合わせてみていく必要がある。

(2) 受傷者について

1) 性別

- 性別ごとの推移をみると、男性の受傷者数に大きな変化はないが、女性は 2019 年より約 50 件の減少がみられる。（表 5、図 2）

2) 年齢層

【5 歳ごとの搬送件数の推移】

- 0～4 歳がやや多く、その後の世代は減少しているが、10 代後半から 20 代前半に向けて増加傾向にある。（表 6）
- 65 歳以降になると大きく搬送件数が増加し 80 歳台になると減少に転じる。（表 6）
- 前年と比較すると、55～59 歳及び 85～89 歳台が大きく減少している。（表 6）

- 65歳以上及び75歳上の高齢者の搬送をみると、人数及び搬送率（高齢者人口に対する搬送者の割合）ともに前年より減少。（表7）

→搬送率は、2017年から継続して低下しているが、2020年の減少幅は大きい。（表7）

【10歳ごとの搬送件数の推移】

- 0～9歳は減少傾向にあったが、2018年から増加している。（図3）
- 10歳台、20歳台は緩やかに減少している。（図3）
- 30歳台は減少傾向にあったが、2020年は増加している。（図3）
- 70歳台は、2015年ごろから200件前後で推移している。（図3）
- 80歳台の件数が増加傾向にあるが、2020年は若干減少している。（図3）

3) 職業等

- 男性、女性ともに「無職」が最も多く、女性は「主婦」、男性は「会社員」が続く。（表8）
- 自営業「生徒」「学生」は、男性が女性の2倍以上である。（表8）

- 年齢層で見ると、0～4歳が「乳幼児」と「無職」、5～9歳が「児童」と「生徒」に分かれるなど入力にはばらつきがある。（表9） →統一したほうがよいのではないか

4) 受傷の状況

- 傷病程度は、「軽症」が最も多く、「中等症」と「重症」がほぼ同数。（表10）
- 外的要因による受傷であっても、「心配停止」や「搬送拒否」の場合は不搬送となり傷病度が記載されていない。（表10）
→なかには実際に受傷しているものもあり、本調査の目的を考慮すると分析対象になるため、それらの事例（「心肺停止」13件、「搬送拒否」41件）について、わかる範囲で傷病程度を分類し、「補正データ」とした。また、補正データでは「重篤」を「重症」に含む
- 傷病程度（補正）を年齢層で見ると、いずれの年齢層も「軽症」が最も多い。（表11）
- 高齢者になると中等症、重症度の方が増えている。特に、75歳以上になると救急搬送の半数は「中等症」以上となっており、高齢者（特に後期高齢者）の受傷の救急搬送は重症傾向にあるといえる。（表11）
- 14歳以下、50歳以上は「一般負傷」が最も多く、15～49歳は「交通事故」が最も多い。（表12,13）
- 「労働災害」は55歳以上、「自損行為」は20～50歳台、「運動競技」は10歳台が多い。（表12,13）
- 前年と比較すると、「火災」と「自損行為」以外は減少。特に「加害」の減少が大きい。（表12,13）
→虐待のリスクが世界的にも高まっているといわれているが、2020年の救急搬送データからは兆候は確認されていない。
- 「自損行為」が大きく増加し、新型コロナウイルス感染拡大による影響として全国的にみられる自殺者増加と併せて注視していく必要がある。（表12,13）

(3) 傷病程度

- 受傷程度の推移(補正)をみると、「軽症」「中等症」は減少、「重症(重篤含む)」が増加。(表14, 図4)
- 「死亡」及び「不搬送(心肺停止)」については、2013年以降20人前後で推移している一方で、「搬送拒否」の件数が2016年以降は増加傾向。(表14, 図4)
- いずれの事故種別でも「軽症」が最も多い。しかし、「自損行為」は、「軽症」とほぼ同数の「死亡」(「死亡」と「心肺停止等」の合計)が見られる。(表15)
- 「交通事故」の総件数は前年よりも減少しているが、前年は0件であった死亡が5件みられる。(表15)

(4) 発生場所

1) 大項目

- 発生場所は「住宅」が最も多く、「道路」「公衆出入り場所」と続く。(表16)
- 性別でみると、女性は「住宅」、男性は「道路」での受傷が最も多い。(表16)
- 「住宅」での受傷は、5歳未満の子どもと65歳以上の高齢者が多い。「道路」は、5～9歳、15～54歳、60～64歳が多い。(表17)
→それぞれの世代での受傷の背景や原因が違うのではないか。

2) 中項目

- 発生場所の中項目で最も多いのは「自宅」で、(続いて多い「不詳」を除くと)「市道」「国道」「府道」と道路が続く。(表18)
- 福祉施設(高齢者)での受傷も多くみられる。(表18,19)
→前年の57件から15件に減少しているが、記述の内容から高齢者の入所施設での受傷ではないかと思われる事例があることから、高齢者の(「自宅」と併せて)日常生活の場への対策が求められる。
- 「住宅」で最も多いのは「自宅」。「道路」は、具体的な内容が記載されていない「不詳」が最も多い。(表19) →具体的な情報が必要ではないか。

3) 小項目

- 発生場所を大項目と小項目でみると、「屋内」「屋外」とともに「住宅」が最も多い。(表20)
- 道路については、これまでは国道や府道の名称が記載されていたが、今回のデータではほとんど記載されていない。(表20)
→多発場所と受傷の状況を把握するためにも、より具体的な記述が必要ではないか

4) 特記事項

- 最も多いのは「路上」、(続いて多い「不詳」を除くと)「交差点/横断歩道」と道路に関する記述が多い。(表21)
- 続いて、「居室、居間、リビング」「庭」「自室・寝室」と住宅が多くみられる。(表21)
- 住宅内での受傷を特記事項でみると、「居室、居室、リビング」「庭」、道路では「交差点・横断歩道」が多い。「公衆出入り場所」では、「運動場・グラウンド」が多い。(表22)

- 発生場所の「中項目」と「特記事項」を併せてみると、「居室、居間、リビング」「庭」「自室」「玄関」「階段」などはほとんどが「自宅」である（表 23）
- 「交差点」や「横断歩道」については、「不詳」がほとんどだが、それ以外では「国道」がやや多い。（表 23）

（5）事故種別

1）事故種別ごとの発生件数の推移

- 事故種別は、前年同様に「一般負傷」が最も多く、「交通事故」が続く。ただし、いずれも件数は減少している。一方で、「自損行為」と「火災」が大きく増加している。（表 24）
→コロナ禍の社会状況や生活様式の変化が影響している可能性があるのではないか。

2）事故種別と性別

- 事故種別を性別でみると、「一般負傷」の男女の差は小さくなっている。（表 25-27）
- 「交通事故」は、女性は大きく減少しているが、男性はそれほど変わっていない。（表 25-27）
- 「自損行為」は男女ともに増加傾向にあり、特に女性が大きく増加している。（表 25-27）

3）事故種別と年齢層（再掲）

- 0～14歳、50歳以上は、「一般負傷」、その間の年齢層は、「交通事故」が多い。
- 10歳台は「運動競技」も多い。（表 28）

（6）受傷機転

- 受傷機転では、「転倒」が最も多い。（表 29）
- 受傷機転を年齢層でみると、「転倒」、「転落」及び「誤嚥・誤飲」は、子どもと高齢者に多い。（表 30、表 31）
- 受傷因子（何でケガをしたのか）や受傷時の行動を事故種別ごとにみると、「不詳」が非常に多い。→記載が少ない（表 32、表 34）
- 「一般負傷」の受傷時の行動については、「不詳」以外では、「歩行中」、階段等の「昇降時」などが多い（表 34）
- 「間接受傷機転（直接機転を引き起こした要因）」を「事故種別」でみると、「一般負傷」では「躓き」や「バランスを崩した」場合が最も多い。（表 33）
- 「交通事故」のうち、自動二輪による事故（転倒及び衝突・接触）は10歳台後半から20歳台前半が多い。（表 30）
- 自転車による事故受傷は子どもと高齢者（60歳以上）に多い。（表 30）
- 「交通事故」は、「自動車」の衝突・接触が最も多く、「自動二輪」の「転倒」「衝突・接触」が続く。（表 31）
- 「交通事故」は、相手方が自動車の事故でのケガが多い。（表 32）
- 「自動二輪」や「自動車」は、「運転誤り」、「衝突・接触」による受傷が多い。（表 33）

- 「交通事故」は、自動車や自動二輪、自転車等での「走行中」が多い。(表 34)
- 「自損行為」については、「故意による中毒」が最も多く、「故意による絞首」がく。(前年は、故意による絞首が最も多かった)(表 31)
- 「自損行為」は「処方薬」を用いる場合最も多く、医療機関を受診している方が処方された睡眠薬等を用いている。(表 32)
- なお、ここでは薬などを服用したうえで刃物等で自損行為に至ったケースは含まれていない(その場合は、間接機転に記録)。(表 32)

1) 一般負傷

- 「一般負傷」の受傷機転で最も多いのは「転倒」で、その受傷因子はほとんどが「不詳」。(表 35)
→子どもは遊んでいる最中、高齢者は歩行中や起床・離床時の転倒が多い。(表 36)
- 2 番目に多い「転落」は、「階段」「ベッド」からが多い。(表 35, 表 37)
→高齢者については、「脚立」からの転落もみられる。(表 37)
→転落時の行動をみると、子どもは階段等の昇降や遊び中、50 歳台以上は階段の昇降あるいは作業中が多い。(表 38)
- 「モノとの接触」は、「ベッド」が多くみられる(表 35)
- 「刺され・咬まれ」については、「蜂」によるものが多い。(表 35)

2) 交通事故

- 自動車乗車時に「自動車」と「衝突」したことによる受傷が最も多いものの、件数は前年からは減少している。(表 39)
- 次に多いのは「自動二輪」の「転倒」だが、受傷因子は全て「不詳」となっている。(表 39)

3) 運動競技

- 「運動競技」時の受傷は、人やモノとの接触が最も多い。「人」は「競技者」、モノは「運動具」で、とくに「ボール」が多い。これらの傾向は前年と同様。(表 40-42)
- 「直接機転」が「ヒトとの接触」の場合、何が原因で接触したのかについての記載がなく「不詳」となっている。(表 40-42)
- 直接機転が「転倒」の場合、「ヒトとの接触」によって転倒した事例が 3 件あり、24 件のうち 10 件はヒトとの接触によって受傷している。(表 40-42)
- 前年にみられた「熱中症」が 2020 年にはみられなかった。(表 40-42)
- 「ヒトとの接触」は、サッカー及びラグビーなどの競技中に他の競技者との接触、「モノとの接触」についても、球技中がほとんどを占めている。(表 43)

4) 労働災害

- 労働災害では、「転倒」が最も多く、「転落」、「モノとの接触」、(機械への)「挟まれ・巻き込まれ」が続く。(表 44-45)
- 転倒した際に何でケガをしたのかは「不詳」の場合が多いが、「転落」については「自動車(荷台含む)」、「梯子」からの転落となっている。(表 44-45)

- 「モノとの接触」による受傷について、接触したのは「機械」や「重量物」及び「落下物」によるものとなっている。(表 44-45)
- 労働災害の間接機転は「不詳」が最も多いが、「転倒」に至った要因として、「不詳」以外には、「滑る(床)」、「躓き」などがみられる。(表 46-47)

5) 自損行為

- 受傷機転については、前年は「絞首」が最も多かったが、2020年は「故意による中毒」が最も多い。(表 48-51)
→受傷因については、「中毒」では「処方薬」が最も多く、「練炭」による一酸化炭素中毒もみられる。(表 48-51)
- 「自損行為」の際の間接機転や何をしていたのかについては記載がなく、全て「不詳」である(表 48-51)

6) 加害

- 「加害」による受傷は、前年に比べて大きく減少している。いずれも道具等を用いず、殴打や蹴られたりしての受傷です。(表 52-55)
- 加害者は、3人のうちの2人は家族である。(表 52-55)
- 間接機転はすべて「不詳」であり、3件に2件は、受傷時に「ケンカ・口論」をしていた。(表 52-55)

7) 火災

- 2020年は7件で、前年の3件から倍以上の増加(表 56-59)
- 火災による受傷は、全て「煙・火・火炎」による暴露である。
- 「間接機転」は、すべて「不詳」となっている。
- 受傷時の行動は、「不詳」以外では「消火活動」が2件、「作業中」と「就業中」がそれぞれ1件となっている。

8) 水難

- 「水難」による救急搬送はなかった。

(7) その他

救急搬送事例のなかから、日本あるいは亀岡市における特徴的な傾向をみるために、いくつかのキーワードをもとに分析した。

1) 浴室における受傷

- 「浴室」での受傷は23件あり、女性は子どもと高齢者、男性は高齢者に加えて成年もみられた。(表 60)
- 浴室での受傷は、「一般負傷」と「自損行為」がみられた。(表 62, 表 63)
→「一般負傷」はほとんどが「転倒」で、主に子どもと高齢者であった。
→「自損行為」は20歳台による「故意による中毒」と50歳台の「不詳」

- 「受傷機転」は「転倒」が最も多く、「間接機転」は「滑る」が最も多い。そのほかにも、ふらつき等によってバランスを崩したり、躓いて転倒した事例もみられた。他の自治体等で多くみられる「溺れ・溺水」の記録はない。(表 61)

- 飲酒が認められたのは、転倒のうちの2件であった。(表 61)

2) 飲酒がみられた受傷(疑いも含む)

- 飲酒がみられた事例は、前年の26件から増えて35件となっている。(表 64, 表 65)
- 性別で見ると、男性は同じ件数だが、女性が前年の1件から10件に増加している。(表 64, 表 65)
- 年齢で見ると、高齢の男性の受傷が多くみられる。(表 64, 表 65)
- 飲酒(疑いも含む)がみられた受傷を「年齢層」ごとに「直接機転」で見ると、いずれの年齢層においても「転倒」が多い。なかでも、高齢者の「転倒」が多い。続いて多い「転落」は、60歳以上である。(表 66, 表 67)
- 「自損行為」は、いずれも40~44歳となっている。(表 66, 表 67)
- 受傷する前の間接機転を併せてみると、記載がなく「不詳」のケースが多い。そのなかで、「転倒」については、「滑る」か「バランスを崩す」「躓く」場合がみられる。(表 68, 表 69)

3) 認知症

- 搬送された方のうち認知症がある方は8人で、いずれも後期高齢者で、女性が男性よりも多くみられる。(表 70, 表 71)
- 受傷した場所、「転落」については「高齢者施設」、「転倒」は「自宅」及び「親戚・知人宅」、「誤嚥・誤飲」は「自宅」となっている。(表 72)

3. 救急搬送された受傷事例の分析(詳細)

(1) 救急搬送件数の概要

- 今回、亀岡消防から外的要因による事故及びそれによる受傷として 1052 件の事例に関するデータの提供を受けた。
→事故や受傷の内容を確認したうえで 20 件の「非該当」を除き、1032 件を分析。
- 該当しない（非該当）と判断した 20 件については、無理な頑張り以外での脱臼など外的要因以外の原因により搬送した場合、現地に到着したところ該当事案（事故や受傷者がいなかった）ではなかった場合、他隊による対応済みの場合などであった。
- 受傷がみられたものの本人が救急搬送を拒否したために救急搬送に至らなかった、あるいは、事故は発生したが受傷しなかった場合でも、その経緯や原因がわかるものについては「該当」とし分析対象とした。（表 1 及び表 2）
- これまで外的要因による救急搬送件数は 1150 件程度で推移していたが、2020 年は約 100 件減少している。これは、新型コロナウイルス感染拡大予防のための外出自粛や三密をさける行動により生活様式や行動が変わったことによる影響があると思われる。

表 1 外的要因による救急搬送件数の推移

	該当	非該当	合計
2010 年(*)	847	9	856
2011 年	1211	15	1226
2012 年	1145	15	1160
2013 年	1166	14	1180
2014 年	1150	23	1173
2015 年	1104	25	1129
2016 年	1121	15	1136
2017 年	1154	13	1167
2018 年	1116	33	1149
2019 年	1112	29	1141
2020 年	1032	20	1052
合計	11126	191	11317

(*) 4~12 月の件数

表 2 搬送区分

	度数	%
搬送	975	94.5
不搬送	57	5.5
合計	1032	100.0

【年間の搬送件数の推移】

- 月ごとの搬送件数をみると、特に4月の搬送件数が大きく減少している。
→新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛等の対策が始まった時期に重なることから、生活様式の変化（外出自粛含む）が反映している可能性がある。

表 3 救急搬送データの件数の推移(月別)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2010年	-	-	-	81	99	77	103	99	77	107	97	107	847
2011年	76	94	102	79	86	102	108	111	119	127	90	117	1211
2012年	89	84	101	97	80	85	92	101	101	121	103	91	1145
2013年	91	80	99	104	116	89	101	89	101	97	103	96	1166
2014年	82	74	104	96	102	103	108	92	99	100	80	110	1150
2015年	94	83	91	73	88	50	93	129	104	109	88	102	1104
2016年	90	71	87	107	90	69	114	111	99	88	86	109	1121
2017年	97	77	91	93	86	92	103	91	99	110	111	104	1154
2018年	97	78	81	83	98	104	104	97	95	112	87	80	1116
2019年	84	85	81	92	93	78	92	108	89	101	100	109	1112
2020年	69	83	90	68	73	91	89	95	91	89	101	93	1032

※2010年のデータは、4～12月の9か月のみ

【事故種別の傾向】

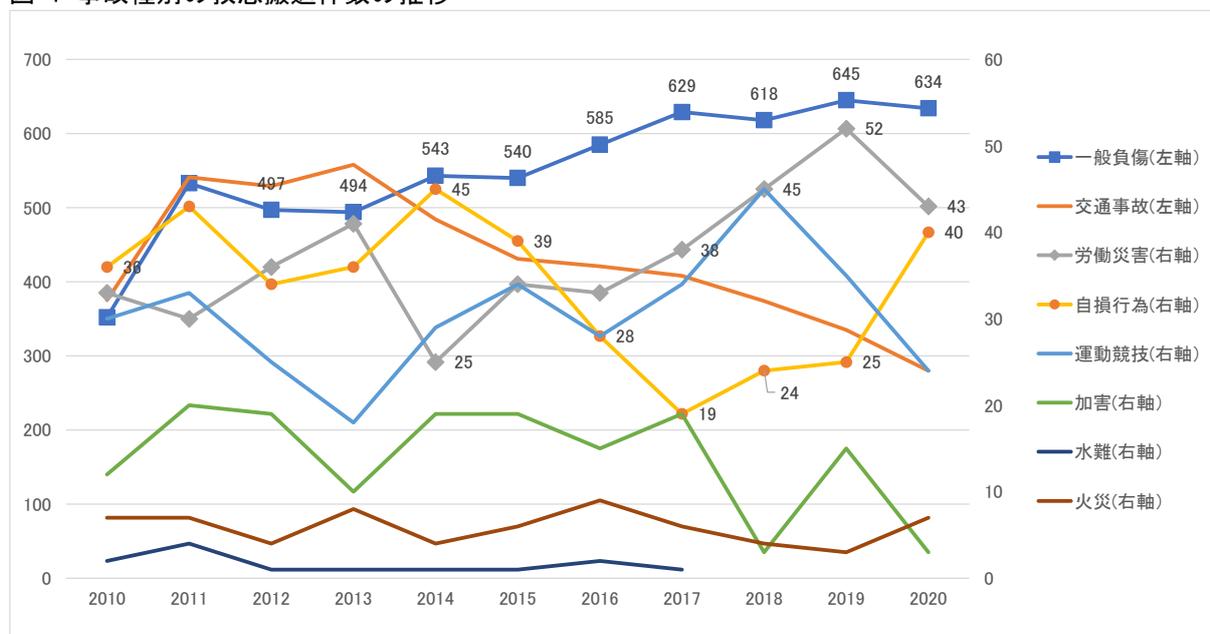
- これまで同様に「一般負傷」による搬送件数が最も多く、交通事故による受傷が減少傾向にある。
- 変化が見られたのは、「自損行為」の増加と「労働災害」の減少であった。
→自損行為については全国的にみられる自殺者数の増加、労働災害の減少については、労働を取り巻く環境の変化と合わせてみていく必要がある。

表 4 事故種別の救急搬送件数の推移

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
一般負傷	352	533	497	494	543	540	585	629	618	645	634
交通事故	375	541	529	558	484	431	421	408	374	335	280
労働災害	33	30	36	41	25	34	33	38	45	52	43
自損行為	36	43	34	36	45	39	28	19	24	25	40
運動競技	30	33	25	18	29	34	28	34	45	35	24
加害	12	20	19	10	19	19	15	19	3	15	3
水難	2	4	1	1	1	1	2	1		2	
火災	7	7	4	8	4	6	9	6	4	3	7
自然災害									3		
不詳											1
合計	847	1211	1145	1166	1150	1104	1121	1154	1116	1112	1032

※2010年のデータは、4～12月の9か月のみ

図 1 事故種別の救急搬送件数の推移



(2) 受傷者について

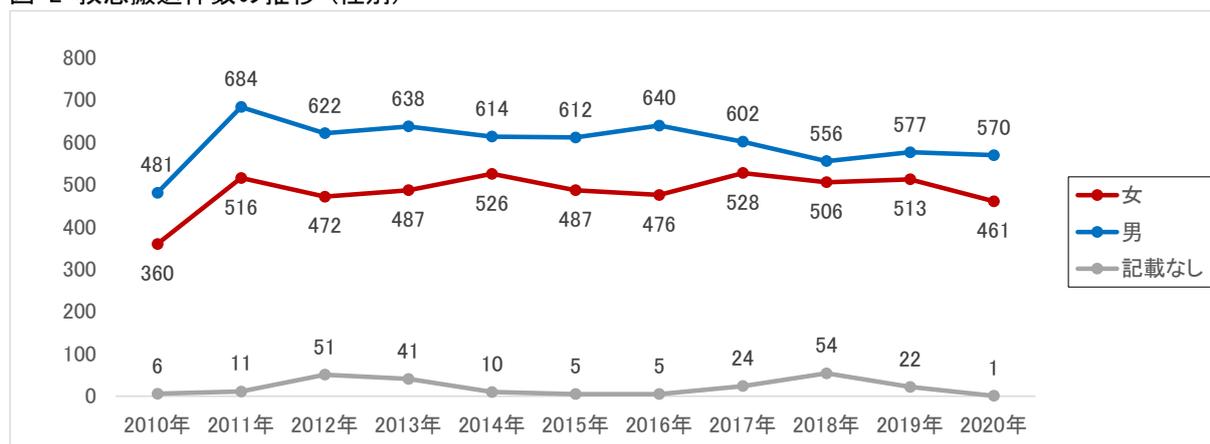
1) 性別

- 性別ごとの推移をみると、男性の受傷者数に大きな変化はないが、女性は2019年より約50件の減少がみられる。

表 5 救急搬送件数の推移 (性別)

	女	男	記載なし	合計
2010年	360	481	6	847
2011年	516	684	11	1211
2012年	472	622	51	1145
2013年	487	638	41	1166
2014年	526	614	10	1150
2015年	487	612	5	1104
2016年	476	640	5	1121
2017年	528	602	24	1154
2018年	506	556	54	1116
2019年	513	577	22	1112
2020年	461	570	1	1032

図 2 救急搬送件数の推移（性別）



2) 年齢層

【5歳ごとの搬送件数の推移】

- 0～4歳がやや多く、その後の世代は減少しているが、10代後半から20代前半に向けて増加傾向にある。
- 65歳以降になると大きく搬送件数が増加し80歳台になると減少に転じる。
- 前年と比較すると、55～59歳及び85～89歳台が大きく減少している。

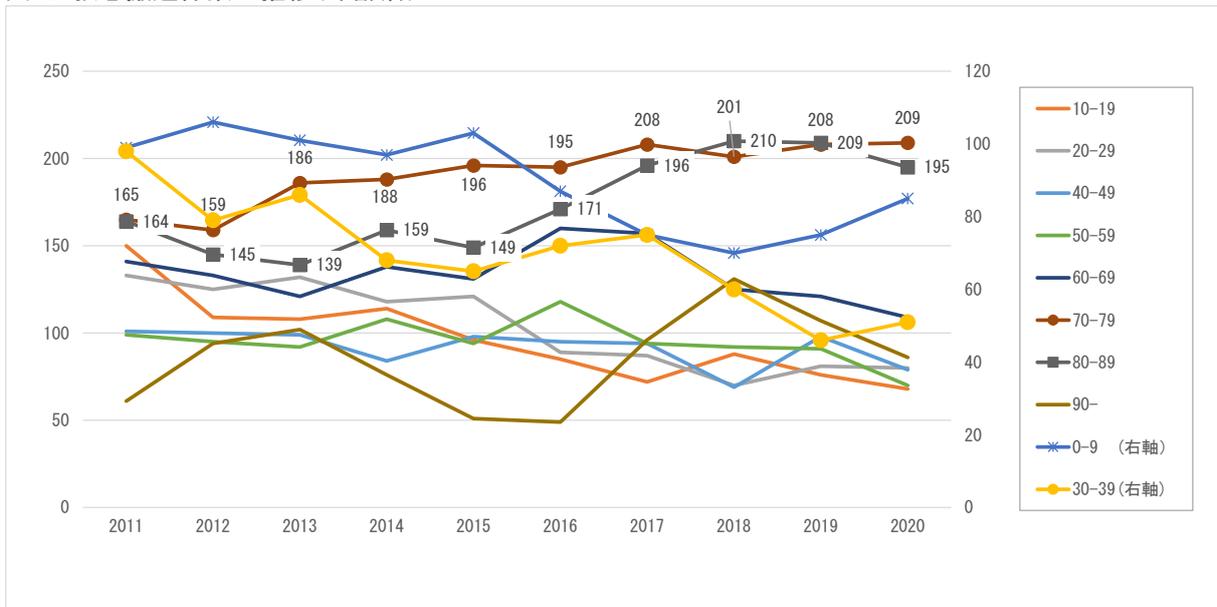
表 6 救急搬送件数の推移（年齢層）

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
0-4	33	59	62	65	67	58	57	45	43	48	49
5-9	38	40	44	36	30	45	30	30	27	27	36
10-14	32	56	28	42	44	32	26	25	34	31	28
15-19	63	94	81	66	70	64	59	47	54	45	40
20-24	70	81	79	80	70	71	56	55	41	51	49
25-29	32	52	46	52	48	50	33	32	29	30	31
30-34	21	51	39	45	21	34	39	39	29	27	23
35-39	39	47	40	41	47	31	33	36	31	19	28
40-44	38	46	53	50	44	42	47	53	38	48	41
45-49	33	55	47	49	40	56	48	41	31	50	38
50-54	42	41	43	35	59	48	55	38	41	38	43
55-59	34	58	52	57	49	46	63	56	51	53	27
60-64	65	77	74	66	79	44	48	61	53	48	44
65-69	37	64	59	55	59	87	112	96	72	73	65
70-74	63	69	85	88	80	85	91	98	103	103	101
75-79	55	96	74	98	108	111	104	110	98	105	108
80-84	63	91	81	77	77	71	91	116	113	107	106
85-89	49	73	64	62	82	78	80	80	97	102	89
90～	31	46	43	42	48	51	49	72	77	85	81
記入なし	9	15	51	60	28			24	54	22	5
合計	847	1211	1145	1166	1150	1104	1121	1154	1116	1112	1032

【10 歳ごとの搬送件数の推移】

- 0～9 歳は減少傾向にあったが、2018 年から増加している。
- 10 歳台、20 歳台は緩やかに減少している。
- 30 歳台は減少傾向にあったが、2020 年は増加している。
- 70 歳台は、2015 年ごろから 200 件前後で推移している。
- 80 歳台の件数が増加傾向にあるが、2020 年は若干減少している。

図 3 救急搬送件数の推移(年齢層)



- 65 歳以上及び 75 歳上の高齢者の搬送をみると、人数及び搬送率（高齢者人口に対する搬送者の割合）ともに前年より減少。
→搬送率については、2017 年から継続して低下しているが、2020 年の減少幅は大きい。

表 7 高齢者の搬送率の推移

		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
65 歳以上	搬送数	439	406	422	454	483	527	572	573	575	550
	人口	19,372	19,768	21,079	22,262	23,349	24,125	24,768	25,382	25,885	26,271
	搬送率	2.27%	2.05%	2.00%	2.04%	2.07%	2.18%	2.31%	2.26%	2.22%	2.09%
75 歳以上	搬送数	306	262	279	315	311	324	378	395	399	384
	人口	8,767	8,932	9,356	9,589	9,888	10,333	10,881	11,446	11,986	12,355
	搬送率	3.49%	2.93%	2.98%	3.29%	3.15%	3.14%	3.47%	3.45%	3.32%	3.11%

3) 職業等

- 男性、女性ともに「無職」が最も多く、女性は「主婦」、男性は「会社員」が続く。
- 「自営業」「生徒」「学生」は、男性が女性の2倍以上である。

表 8 職業

		性別			合計
		女	男	記載なし	
無職	度数	301	248	0	549
	%	29.2%	24.0%	0.0%	53.2%
会社員	度数	27	131	0	158
	%	2.6%	12.7%	0.0%	15.3%
乳幼児	度数	25	38	0	63
	%	2.4%	3.7%	0.0%	6.1%
その他	度数	27	21	0	48
	%	2.6%	2.0%	0.0%	4.7%
自営業	度数	7	39	0	46
	%	.7%	3.8%	0.0%	4.5%
主婦	度数	35	0	0	35
	%	3.4%	0.0%	0.0%	3.4%
学生	度数	9	24	0	33
	%	.9%	2.3%	0.0%	3.2%
生徒	度数	9	22	0	31
	%	.9%	2.1%	0.0%	3.0%
児童	度数	10	19	0	29
	%	1.0%	1.8%	0.0%	2.8%
公務員	度数	6	15	0	21
	%	.6%	1.5%	0.0%	2.0%
不明	度数	5	5	0	10
	%	.5%	.5%	0.0%	1.0%
農林業	度数	0	4	0	4
	%	0.0%	.4%	0.0%	.4%
作業員	度数	0	2	0	2
	%	0.0%	.2%	0.0%	.2%
記載なし	度数	0	2	1	3
	%	0.0%	.2%	.1%	.3%
合計	度数	461	570	1	1032
	%	44.7%	55.2%	.1%	100.0%

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	494.293 ^a	26	.000
尤度比	187.292	26	.000
有効なケースの数	1032		

- 職業を年齢層で見ると、0～4歳が「乳幼児」と「無職」、5～9歳が「児童」と「生徒」に分かれるなど入力にはばらつきがある。

→統一したほうがよいのではないか

【参考】

学校教育法においては、「児童」は、小学校など初等教育を受けている子ども、「生徒」は中等教育（中学校、高等学校）を受けている子ども、「学生」は大学などの高等教育を受けている者

表 9 職業×年齢層

	無職	会社員	乳幼児	その他	自営業	主婦	学生	生徒	児童	公務員	不明	農林業	(空白)	作業員	合計
0-4	1		48												49
5-9			15					2	19						36
10-14	1							17	10						28
15-19	1	5		2			20	12							40
20-24	4	20		5	1		13			2	3		1		49
25-29	5	14		5	3					4					31
30-34		12		5	1	2				3					23
35-39	3	12		2	4	2				1	3	1			28
40-44	10	18		2	6	3				2					41
45-49	5	19		4	3	4				3					38
50-54	10	18		2	7	4				2					43
55-59	6	10		3	2	4				2					27
60-64	17	10		4	6	2				2	1	1		1	44
65-69	40	12		6	4	2						1			65
70-74	76	6		6	6	4					1	1		1	101
75-79	97			2	1	7					1				108
80-84	104	1			1										106
85-89	86				1	1					1				89
90-94	62														62
95-99	15														15
100-104	4														4
(空白)	2	1											2		5
合計	549	158	63	48	46	35	33	31	29	21	10	4	3	2	1032

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	3206.368 ^a	273	.000
尤度比	1737.964	273	.000
有効なケースの数	1032		

a. 269 セル (87.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .01 です。

4) 受傷の状況

- 傷病程度は、「軽症」が最も多く、「中等症」と「重症」がほぼ同数。
- 外的要因による受傷であっても、「心配停止」や「搬送拒否」の場合は不搬送となり傷病度が記載されていない。
→しかし、それらのなかには実際に受傷しているものもあり、本調査の目的を考慮すると分析対象になる。そのため、それらの事例（「心肺停止」13件、「搬送拒否」41件）について、わかる範囲で傷病程度を分類し、「補正データ」とする。
- また、補正データでは「重篤」を「重症」に含む

表 10 傷病程度(救急搬送データ)×傷病程度(補正)

補正データ \ 傷病程度	軽症	中等症	重症	重篤	死亡	その他	記載なし	合計
不搬送（傷病者なし）							2	2
軽症	680							680
中等症		141						141
重症・重篤			140	2				142
死亡					9			9
不搬送（心肺停止）							13	13
不搬送（その他）							1	1
不搬送（搬送拒否）							41	41
搬送（記載なし）						1	2	3
合計	680	141	140	2	9	1	59	1032

- 傷病程度（補正）を年齢層で見ると、いずれの年齢層も「軽症」が最も多い。
- 高齢者になると中等症、重症度の方が増えている。特に、75歳以上になると救急搬送の半数は「中等症」以上となっていることから、高齢者(特に後期高齢者)の受傷（救急搬送事例に限定した場合）は重症になる傾向にあるといえる。

表 11 年齢層ごとの重症度(補正)

年齢層	(傷病者なし) 不搬送	軽症	中等症	重症	死亡	(心肺停止) 不搬送	(その他) 不搬送	(搬送拒否) 不搬送	(記載なし) 搬送	合計
0-4		43	1					5		49
5-9		34	2							36
10-14		22	3	1				2		28
15-19		34	3	3						40
20-24		39	6			1	1	2		49
25-29		26	3	1		1				31
30-34		18	3			1		1		23
35-39		18	4	1	2	2		1		28

40-44		29	5	2		1			4		41	
45-49		29	4	2					3		38	
50-54		31	5	1					5		43	
55-59		16	5			2	2		1	1	27	
60-64		27	5	6					4		44	
65-69		45	7	13							65	
70-74		60	19	14	3				4	1	101	
75-79	1	56	22	25	1				3		108	
80-84		65	17	19	1				3	1	106	
85-89		48	15	23					2		89	
90-94		29	10	23							62	
95-99		7	2	6							15	
100-104		2		2							4	
記載なし	1	2							1		5	
合計	2	680	141	142	9	13			1	41	3	1032

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ 2 乗	401.589 ^a	168	.000
尤度比	285.925	168	.000
有効なケースの数	1032		

a. 17 セル (63.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待数は .00 です。

- 14 歳以下、50 歳以上は「一般負傷」が最も多く、15～49 歳は「交通事故」が最も多い。
- 「労働災害」は 55 歳以上、「自損行為」は 20～50 歳台、「運動競技」は 10 歳台が多い。
- 前年と比較すると、「火災」と「自損行為」以外は減少しており、特に「加害」の減少が大きい。
→虐待のリスクが世界的にも高まっているといわれているが、2020 年の救急搬送データからは兆候は確認されていない。
- 「自損行為」が大きく増加し、新型コロナウイルス感染拡大による影響として全国的にみられる自殺者増加と併せて注視していく必要がある。

表 12 年齢層×事故種別

	一般負傷	交通事故	労働災害	自損行為	運動競技	火災	加害	不詳	合計
0-4	43	6							49
5-9	24	12							36
10-14	12	10			6				28
15-19	6	24	2	1	7				40
20-24	9	26	4	6	3		1		49
25-29	1	21	1	5	2		1		31
30-34	5	13	3	2					23

35-39	6	11	2	6	1	2			28
40-44	6	21	4	9	1				41
45-49	7	25	3	2	1				38
50-54	21	17	2	2		1			43
55-59	10	9	5	3					27
60-64	19	15	6	1	2			1	44
65-69	45	13	5	1	1				65
70-74	66	25	6	1		3			101
75-79	91	16		1					108
80-84	98	6				1	1		106
85-89	83	6							89
90-94	60	2							62
95-99	15								15
100-104	4								4
記載なし	3	2							5
合計	634	280	43	40	24	7	3	1	1032

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	649.578 ^a	147	.000
尤度比	603.086	147	.000
有効なケースの数	1032		

a. 137 セル (77.8%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .00 です。

表 13 (参考) 年齢層×事故種別(2019 年)

	一般 負傷	交通 事故	労働 災害	運動 競技	自損 行為	加害	火災	水難	合計
0-4	43	5							48
5-9	16	11							27
10-14	6	11		12	1	1			31
15-19	3	29	2	11					45
20-24	3	33	5	5	3	2			51
25-29	4	21	3		1	1			30
30-34	4	12	7	1	2	1			27
35-39	4	10	1	1	1	2			19
40-44	6	30	5	1	2	4			48
45-49	17	25	4	2		1	1		50
50-54	13	18	5		2				38
55-59	28	20	3		1	1			53
60-64	21	17	6	1	1	2			48
65-69	44	20	4	1	3		1		73
70-74	70	28	4		1				103
75-79	79	22	1		2			1	105
80-84	96	10	1						107
85-89	97	5							102
90-	82	2			1				85
不詳	9	6	1		4		1	1	22
合計	645	335	52	35	25	15	3	2	1112

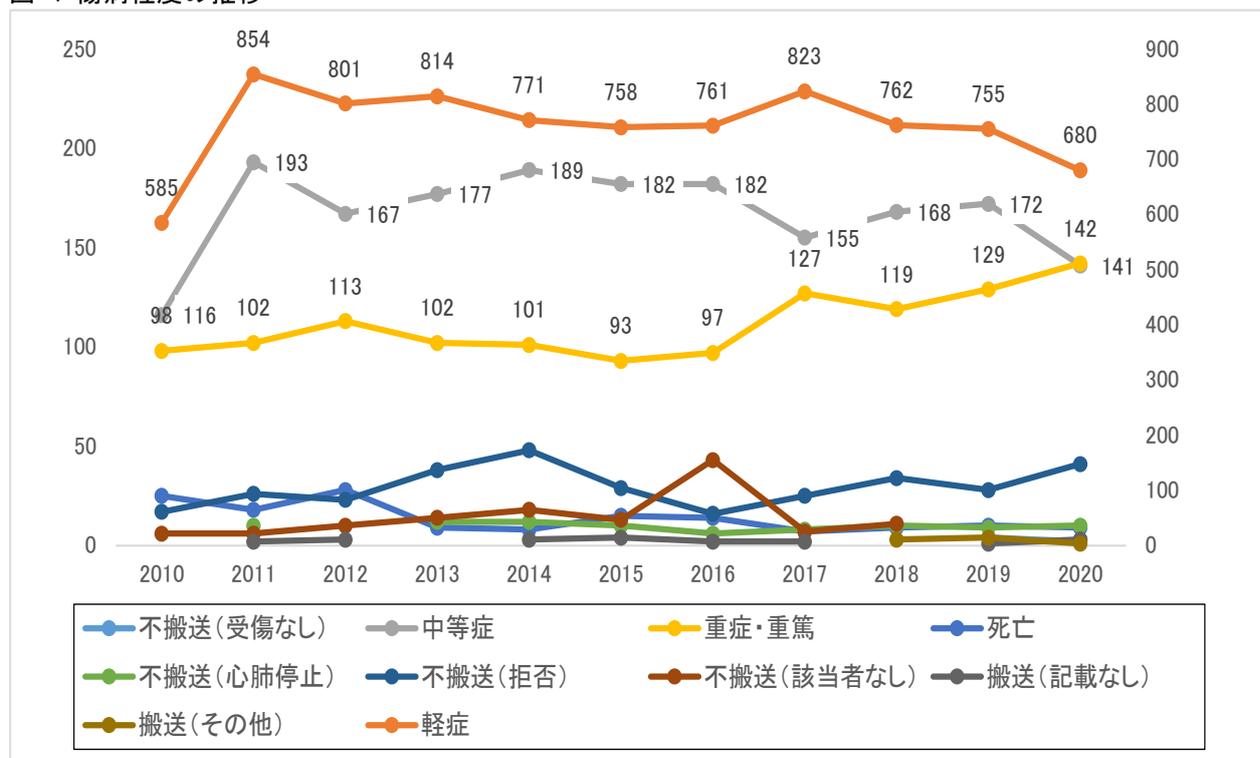
(3) 傷病程度

- 受傷程度の推移(補正)をみると、「軽症」「中等症」は減少、「重症(重篤含む)」が増加。
- 「死亡」及び「不搬送(心肺停止)」については、2013年以降20人前後で推移している一方で、「搬送拒否」の件数が2016年以降は増加傾向。

表 14 受傷の傷病程度の推移

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
不搬送(受傷なし)										4	2
不搬送(該当者なし)	6	6	10	14	18	13	43	7	11		
軽症	585	854	801	814	771	758	761	823	762	755	680
中等症	116	193	167	177	189	182	182	155	168	172	141
重症・重篤	98	102	113	102	101	93	97	127	119	129	142
死亡	25	18	28	9	8	15	14	7	9	10	9
不搬送(心肺停止)		10		12	12	10	6	8	10	9	13
不搬送(拒否)	17	26	23	38	48	29	16	25	34	28	41
搬送(記載なし)		2	3		3	4	2	2		1	3
搬送(その他)									3	4	1
合計	847	1211	1145	1166	1150	1104	1121	1154	1116	1112	1032

図 4 傷病程度の推移



- いずれの事故種別でも「軽症」が最も多い。しかし、「自損行為」は、「軽症」とほぼ同数の「死亡」（「死亡」と「心肺停止等」の合計）が見られる。
- 「交通事故」の総件数は前年よりも減少しているが、前年は0件であった死亡が5件みられる。

表 15 事故種別×傷病程度(補正)

	一般 負傷	交通 事故	労働 災害	自損 行為	運動 競技	火災	加害	不詳	合計
不搬送(傷病者なし)		2							2
軽症	389	227	25	13	20	3	3		680
中等症	98	21	10	8	2	2			141
重症	118	12	8	1	2	1			142
死亡	1	4		3		1			9
不搬送(心肺停止等)		1		8				1	10
搬送(記載なし)	2	1							3
不搬送(搬送拒否)	25	12		4					41
不搬送(搬送対象外)	1			2					3
不搬送(その他)				1					1
合計	634	280	43	40	24	7	3	1	1032

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	414.490 ^a	56	.000
尤度比	184.961	56	.000
有効なケースの数	1032		

a. 55 セル (76.4%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .00 です。

(4) 発生場所

1) 大項目

- 発生場所は「住宅」が最も多く、「道路」「公衆出入り場所」と続く。
- 性別でみると、女性は「住宅」、男性は「道路」での受傷が最も多い。

表 16 発生場所(大項目)×性別

	住宅	道路	公衆出入り場所	仕事場	不詳	合計
女	245	128	78	7	3	461
男	200	226	107	36	1	570
記載なし	0	1	0	0	0	1
合計	445	355	185	43	4	1032

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	47.696 ^a	8	.000
尤度比	49.651	8	.000
有効なケースの数	1032		

a. 7 セル (46.7%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .00 です。

- 「住宅」での受傷は、5歳未満の子どもと65歳以上の高齢者が多い。
- 「道路」は、5～9歳、15～54歳、60～64歳が多い。
→それぞれの世代での受傷の背景や原因が違うのではないか。

表 17 発生場所(大項目)×年齢層

	住宅	道路	公衆出入場所	仕事場	不詳	合計
0-4	38	7	4	0	0	49
5-9	10	16	10	0	0	36
10-14	1	11	16	0	0	28
15-19	5	23	10	2	0	40
20-24	9	27	10	3	0	49
25-29	6	21	3	0	1	31
30-34	3	13	4	3	0	23
35-39	9	13	3	3	0	28
40-44	12	22	3	4	0	41
45-49	4	26	4	3	1	38
50-54	17	18	5	2	1	43
55-59	10	9	3	5	0	27
60-64	14	17	8	5	0	44
65-69	30	18	12	5	0	65
70-74	42	35	16	8	0	101
75-79	65	30	12	0	1	108
80-84	61	24	21	0	0	106
85-89	52	18	19	0	0	89
90-94	40	5	17	0	0	62
95-99	10	1	4	0	0	15
100-104	4	0	0	0	0	4
記載なし	3	1	1	0	0	5
合計	445	355	185	43	4	1032

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	297.772 ^a	84	.000
尤度比	311.926	84	.000
有効なケースの数	1032		

a. 53 セル (48.2%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .02 です。

2) 中項目

- 発生場所の中項目で最も多いのは「自宅」で、(続いて多い「不詳」を除くと)「市道」、「国道」、「府道」と道路が続く。

- 福祉施設（高齢者）での受傷も多くみられる。
→件数は前年の 57 件から 15 件の減少しているが、記述の内容から高齢者の入所施設での受傷ではないかと思われる事例があることから、高齢者の（「自宅」と併せて）日常生活の場への対策が求められる。

表 18 発生場所(中項目)

発生場所（中項目）	度数	%	発生場所（中項目）	度数	%
自宅	426	41.3	空き地	2	.2
不詳	131	12.7	公共施設（集会所）	2	.2
市道	92	8.9	高速道路	2	.2
国道	83	8.0	作業場	2	.2
府道	56	5.4	事務所	2	.2
福祉施設（高齢者）	42	4.1	宗教施設（寺社）	2	.2
余暇・スポーツ施設	34	3.3	府道×市道	2	.2
商業施設（店舗・詳細不明）	25	2.4	その他	2	.2
親戚・知人宅	17	1.6	駐車場（単独）	2	.2
田畑・田園	14	1.4	鉄道施設（駅以外）	1	.1
工場	14	1.4	農道	1	.1
その他作業場	12	1.2	不詳×市道	1	.1
商業施設（*1）	7	.7	府道×国道	1	.1
河川、池及びその周辺	6	.6	商業施設（娯楽施設）	1	.1
商業施設（飲食店）	6	.6	医療機関	1	.1
商業施設（宿泊施設）	6	.6	国道×市道	1	.1
鉄道施設（駅）	6	.6	教育施設（大学）	1	.1
教育施設（小学校）	6	.6	宗教施設	1	.1
教育施設（高校）	5	.5	宗教施設（教会）	1	.1
教育施設（中学校）	4	.4	公共施設（公民館）	1	.1
山林・竹林	4	.4	施設（不詳）	1	.1
福祉施設（保育園）	3	.3	合計	1032	100.0
バス停・ロータリー	3	.3			

(*1) スーパー・コンビニ

- 「住宅」で最も多いのは「自宅」、「道路」は、具体的な内容が記載されていない「不詳」が最も多い。
→具体的な情報が必要ではないか。
- 「公衆出入り場所」は「福祉施設（高齢者）」、特に高齢者の入居施設での受傷が多い。

表 19 発生場所(大分類×中分類)

	発生場所_大					合計		発生場所_大					合計
	住宅	道路	公衆出入場所	仕事場	不詳			住宅	道路	公衆出入場所	仕事場	不詳	
自宅	426	0	0	0	0	426	福祉施設(保育園)	0	0	3	0	0	3
不詳	2	116	3	6	4	131	空き地	0	0	2	0	0	2
市道	0	92	0	0	0	92	公共施設(集会所)	0	0	2	0	0	2
国道	0	83	0	0	0	83	高速道路	0	2	0	0	0	2
府道	0	56	0	0	0	56	作業場	0	0	0	2	0	2
福祉施設(高齢者)	0	0	41	1	0	42	事務所	0	0	0	2	0	2
余暇・スポーツ施設	0	0	34	0	0	34	その他	0	0	2	0	0	2
商業施設(店舗・詳細不明)	0	0	22	3	0	25	府道×市道	0	2	0	0	0	2
親戚・知人宅	17	0	0	0	0	17	宗教施設(寺社)	0	0	2	0	0	2
工場	0	0	0	14	0	14	駐車場(単独)	0	0	2	0	0	2
田畑・田園	0	0	13	1	0	14	宗教施設	0	0	1	0	0	1
その他作業場	0	0	0	12	0	12	宗教施設(教会)	0	0	1	0	0	1
商業施設(スーパー・コンビニ)	0	0	7	0	0	7	商業施設(娯楽施設)	0	0	1	0	0	1
商業施設(宿泊施設)	0	0	6	0	0	6	鉄道施設	0	0	1	0	0	1
河川、池及びその周辺	0	0	6	0	0	6	農道	0	1	0	0	0	1
教育施設(小学校)	0	0	6	0	0	6	医療機関	0	0	1	0	0	1
鉄道施設(駅)	0	0	5	1	0	6	教育施設(大学)	0	0	1	0	0	1
商業施設(飲食店)	0	0	5	1	0	6	公共施設(公民館)	0	0	1	0	0	1
教育施設(高校)	0	0	5	0	0	5	国道×市道	0	1	0	0	0	1
教育施設(中学校)	0	0	4	0	0	4	不詳×市道	0	1	0	0	0	1
山林・竹林	0	0	4	0	0	4	府道×国道	0	1	0	0	0	1
バス停・ロータリー	0	0	3	0	0	3	施設(不詳)	0	0	1	0	0	1
							合計	445	355	185	43	4	1032

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	2746.851 ^a	172	.000
尤度比	2281.716	172	.000
有効なケースの数	1032		

a. 190 セル (86.4%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .00 です。

3) 小項目

- 発生場所を大項目と小項目で見ると、「屋内」「屋外」とともに「住宅」が最も多い。
- 道路については、これまでは国道や府道の名称が記載されていたが、今回のデータではほとんど記載されていない。
→多発場所と受傷の状況を把握するためにも、より具体的な記述が必要ではないか

表 20 事故発生場所(大項目×小項目)

	住宅	道路	公衆出入場所	仕事場	不詳	合計
屋内	321		79	20		420
不詳	18	349	12	10	2	391
屋外	106		93	13	2	214
林道			2			2
9号線			1			1

路上		1				1
京都縦貫自動車道		1				1
農道		1				1
(空白)			1			1
合計	445	355	185	43	4	1032

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	955.053 ^a	32	.000
尤度比	1138.061	32	.000
有効なケースの数	1032		

a. 33 セル (73.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度は .00 です。

4) 特記事項

- 最も多いのは「路上」、(続いて多い「不詳」を除くと)「交差点/横断歩道」と道路に関する記述が多い。
- 続いて、「居室、居間、リビング」「庭」「自室・寝室」と住宅が多くみられる。

表 21 場所(特記事項)

	度数	%		度数	%
路上	235	22.8	記述なし	3	.3
不詳	141	13.7	ゴルフ場	3	.3
交差点/横断歩道	83	8.0	バス停	3	.3
居室、居間、リビング	74	7.2	山林	3	.3
庭 (テラス等を含む)	61	5.9	キャンプ場	2	.2
自室・寝室	55	5.3	ごみ集積所	2	.2
廊下 (玄関等の通路を含む)	35	3.4	河川	2	.2
階段 (踊り場を含む)	29	2.8	解体現場	2	.2
運動場・グラウンド	28	2.7	客席	2	.2
出入口 (玄関、勝手口等)	27	2.6	空き地	2	.2
台所、厨房 (食堂を含む)	24	2.3	施設内	2	.2
歩道	23	2.2	駅前ロータリー	1	.1
浴室、洗面所 (脱衣所含む)	23	2.2	河川敷	1	.1
作業場	21	2.0	境内	1	.1
駐車場、車庫、ガレージ等	18	1.7	教室	1	.1
店舗内	18	1.7	掘削現場	1	.1
敷地内	15	1.5	畦	1	.1
トイレ	13	1.3	建設現場	1	.1
寝室、自室	12	1.2	工事現場	1	.1
公園	9	.9	採石場	1	.1
畑	8	.8	雑木林	1	.1
屋根(*)	6	.6	乗船場	1	.1
水路	5	.5	池	1	.1
田んぼ	5	.5	踏切	1	.1
カーブ	4	.4	道の駅	1	.1
ホーム	4	.4	発掘現場	1	.1
倉庫、納屋	4	.4	搬入場	1	.1
側溝	4	.4	琵琶湖	1	.1
体育館 (柔道場を含む)	4	.4	法面	1	.1

合計	1032	100.0
----	------	-------

(*) 屋上、物干し台、ベランダ、バルコニーを含む

- 住宅内での受傷を特記事項でみると、「居室、居室、リビング」「庭」、道路では「交差点・横断歩道」が多い。「公衆出入場所」では、「運動場・グラウンド」が多い。

表 22 発生場所(大項目×特記事項)

	住宅	道路	公衆出入場所	仕事場	不詳	合計
路上(特定の記載なし)		235				235
不詳	118	1	18	3	4	144
交差点/横断歩道		83				83
居室、居間、リビング	69		5			74
庭(テラス等を含む)	61					61
自室・寝室	55					55
廊下(玄関等の通路を含む)	27		6	2		35
階段(踊り場を含む)	23		5	1		29
運動場・グラウンド			27	1		28
出入口(玄関、勝手口等)	22		4	1		27
台所、厨房(食堂を含む)	20		4			24
歩道		23				23
浴室、洗面所(脱衣所を含む)	17		6			23
作業場				21		21
駐車場、車庫、ガレージ等	5		13			18
店舗内			16	2		18
敷地内	10		5			15
トイレ	8		5			13
寝室、自室			12			12
公園			9			9
畑	1		7			8
屋根(*)	6					6
水路		4	1			5
田			4			4
倉庫、納屋	3			1		4
ホーム			3	1		4
側溝		4				4
体育館(柔道場を含む)			4			4
カーブ		4				4
ゴルフ場			3			3
山林			3			3
バス停			3			3
キャンプ場			2			2
解体現場				2		2
河川			2			2
空き地			2			2
客席			2			2
ごみ集積所			2			2
施設内			1	1		2
採石場				1		1
河川敷			1			1
駅前ロータリー		1				1

掘削現場				1		1
工事現場				1		1
畦			1			1
雑木林			1			1
建設現場				1		1
琵琶湖			1			1
田園				1		1
境内			1			1
踏切			1			1
法面			1			1
道の駅			1			1
教室			1			1
乗船場			1			1
池			1			1
発掘現場				1		1
搬入場				1		1
合計	445	355	185	43	4	1032

(*) 屋上、物干し台、ベランダ、バルコニーを含む

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	2407.521 ^a	232	.000
尤度比	1990.512	232	.000
有効なケースの数	1032		

a. 248 セル (84.1%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度は .00 です。

- 発生場所の「中項目」と「特記事項」を併せてみると、「居室、居間、リビング」「庭」「自室」「玄関」「階段」などはほとんどが「自宅」である
- 「交差点」や「横断歩道」については、「不詳」がほとんどだが、それ以外では「国道」がやや多い。

表 23 発生場所(中項目)上位7×発生場所(特記事項)上位 15

	自宅	不詳	市道	国道	府道	(高齢者) 福祉施設	商業施設(店 舗・詳細不明)	合計
路上		21	85	73	51			230
不詳	108	9				10	1	128
交差点/横断歩道		63	4	10	3			80
居室、居間、リビング	65					5		70
庭(テラス等を含む)	59							59
自室・寝室	55							55
廊下(玄関等の通路を含む)	27					6		33
階段(踊り場を含む)	22						3	25
歩道		22	1					23
台所、厨房(食堂を含む)	20					3		23
出入口(玄関、勝手口等)	21						1	22
浴室、洗面所(脱衣所を含む)	17					1		18

駐車場、車庫、ガレージ等	5	1					6	12
店舗内							11	11
作業場		3						3
運動場・グラウンド		2						2
合計	399	121	90	83	54	25	22	794

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	15271.497 ^a	2494	.000
尤度比	2960.060	2494	.000
有効なケースの数	1032		

a. 2557 セル (98.5%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .00 です。

(5) 事故種別

1) 事故種別ごとの発生件数の推移

- 事故種別は、前年同様に「一般負傷」が最も多く、「交通事故」が続く。ただし、いずれも件数は減少している。

- 一方で、「自損行為」と「火災」が大きく増加している。

→ コロナ禍の社会状況や生活様式の変化が影響している可能性があるのではないか。

表 24 事故種別の救急搬送件数の推移(再掲)

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
一般負傷	352	533	497	494	543	540	585	629	618	645	634
交通事故	375	541	529	558	484	431	421	408	374	335	280
労働災害	33	30	36	41	25	34	33	38	45	52	43
自損行為	36	43	34	36	45	39	28	19	24	25	40
運動競技	30	33	25	18	29	34	28	34	45	35	24
加害	12	20	19	10	19	19	15	19	3	15	3
水難	2	4	1	1	1	1	2	1		2	
火災	7	7	4	8	4	6	9	6	4	3	7
自然災害									3		
不詳											1
合計	847	1211	1145	1166	1150	1104	1121	1154	1116	1112	1032

2) 事故種別と性別

- 事故種別を性別で見ると、「一般負傷」の男女の差は小さくなっている。
- 「交通事故」は、女性は大きく減少しているが、男性はそれほど変わっていない。
- **自損行為は男女ともに増加傾向にあり、特に女性が大きく増加している。**

表 25 性別×事故種別

	一般負傷	交通事故	労働災害	自損行為	運動競技	加害	火災	不詳	(空白)	合計
女	324	101	7	22	3	2	1	1		461
男	310	178	36	18	21	1	6			570
(空白)		1								1
合計	634	280	43	40	24	3	7	1		1032

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	51.653 ^a	14	.000
尤度比	55.583	14	.000
有効なケースの数	1032		

a. 14 セル (58.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度は .00 です。

表 26 (参考)性別×事故種別(2019 年)

2019 年	一般負傷	交通事故	労働災害	運動競技	自損行為	加害	火災	水難	合計
女	336	144	8	6	10	8	1		513
男	300	185	43	29	11	7	1	1	577
空白	9	6	1		4		1	1	22
合計	645	335	52	35	25	15	3	2	1112

表 27 (参考)性別×事故種別(2018 年)

2018 年	一般負傷	交通事故	運動競技	労働災害	自損行為	火災	自然災害	加害	合計
女	320	151	13	9	9	1		3	506
男	270	206	32	35	8	2	3		556
記載なし	28	17		1	7	1			54
合計	637	379	46	46	24	8	5	3	1116

3) 事故種別と年齢層 (再掲)

- 0～14 歳、50 歳以上は、「一般負傷」、その間の年齢層は、「交通事故」が多い。
- 10 歳台は「運動競技」も多い。

表 28 事故種発生件数の推移(年齢層) (※再掲 表 12 年齢層×事故種別)

	一般負傷	交通事故	労働災害	自損行為	運動競技	火災	加害	不詳	合計
0-4	43	6							49
5-9	24	12							36
10-14	12	10			6				28
15-19	6	24	2	1	7				40
20-24	9	26	4	6	3		1		49

25-29	1	21	1	5	2		1		31
30-34	5	13	3	2					23
35-39	6	11	2	6	1	2			28
40-44	6	21	4	9	1				41
45-49	7	25	3	2	1				38
50-54	21	17	2	2		1			43
55-59	10	9	5	3					27
60-64	19	15	6	1	2			1	44
65-69	45	13	5	1	1				65
70-74	66	25	6	1		3			101
75-79	91	16		1					108
80-84	98	6				1	1		106
85-89	83	6							89
90-94	60	2							62
95-99	15								15
100-104	4								4
記載なし	3	2							5
合計	634	280	43	40	24	7	3	1	1032

(6) 受傷機転

- 受傷機転では、「転倒」が最も多い。
- 続いて2013年までは自動車による「衝突」、2014年からは「転落」が多い。

表 29 (参考)2010～2019年の受傷機転(上位30)の推移

受傷機転	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	
転倒(ヒト)	197	297	277	272	304	304	376	381	423	転倒(ヒト)	436
転落(ヒト)	71	119	114	102	94	106	99	122	112	転落(ヒト)	86
衝突(自動車)	79	154	140	135	90	103	106	110	90	衝突(自動車)	61
追突(自動車)	47	88	76	91	76	53	62	61	49	モノとの接触(ヒト)	58
転倒(自動二輪)	53	61	71	36	63	40	69	37	33	転倒(自動二輪)	48
転倒(自転車)	45	49	46	27	74	38	30	28	31	咬まれ・刺され	44
衝突(自動二輪)	38	53	51	51	30	33	37	26	22	追突(自動車)	42
不詳(ヒト)	20	40	13	54	58	77	24	43	2	転倒(自転車)	39
モノとの接触	29	35	38	19	37	29	36	45	47	無理な頑張り	37
接触(ヒト)	21	36	20	34	17	31	21	23	24	接触(ヒト)	25
無理な頑張り等	9	11	36	20	26	23	24	22	19	鋭利なモノとの接触	23
接触(自転車)	9	37	17	32	15	16	8	21	19	衝突(自動二輪)	17
誤飲・誤嚥	13	19	21	19	25	13	25	19	17	接触(自動車)	16
鋭利なモノとの接触	12	16	13	29	22	25	17	25	11	挟まれ・巻き込まれ(ヒト)	16
接触(自動二輪)	17	19	16	34	17	18	7	17	23	誤飲・誤嚥	14
咬まれ・刺され	9	19	24	18	19	16	19	21	16	接触(自転車)	14
衝突(自転車)	16			27	25	20	29	20	15	接触(自動二輪)	13
挟まれ・巻き込まれ	12	12	19	21	9	12	14	18	19	衝突(自転車)	12
故意による中毒	12	24	15	15	18	15	12	5	8	不詳(ヒト)	11
衝突(ヒト)	17	16	17	17	8	8	13	12	9	故意による絞首	9
接触(自動車)	8	2	13	15	17	10	11	5	19	転倒(自動車)	9
故意による絞首	13	6	8	7	18	13	7	7	7	故意による中毒	8
その他	41	18			1	5		5	5	追突(自動二輪)	7

暴行(殴打)	3	8	6	7	13	10	5	10		加害(暴力)	6
転倒(自動車)	4	7	5	9	13	4	1	7	5	高温物質への暴露	5
転落(自動車)	7	12	4	3	8	2	6	7	4	衝突(ヒト)	5
煙・火・火炎への暴露	7	7	4	5	4	5	12	4	4	故意による鋭利なモノとの接触	5
故意による鋭利なモノとの接触	6	7	10	9	4	6	3	3	4	ヒトとの接触	4
追突(自動二輪)	7	4	9	13	2	6		5	5	加害(不詳)	4
不詳(自動車)		3	5	3	4	17	8	7	3	転倒(手押し車・シルバーカー)	4
上位 30 の合計	822	1179	1088	1124	1111	1058	1081	1116	2019	上位 30 の合計	1078

- 受傷機転を年齢層で見ると、「転倒」、「転落」及び「誤嚥・誤飲」は、子どもと高齢者に多い。
- 「交通事故」は、自動二輪による事故（転倒及び衝突・接触）は10歳台後半から20歳台前半が多い。
- 自転車による事故受傷は子どもと高齢者（60歳以上）に多い。
- 自動車による事故受傷はすべての年代で見られる。

表 30 受傷機転(上位 15)×年齢層

	転倒 (ヒト)	転落 (ヒト)	衝突・接触 (自動車)	モノとの 接触	二輪 転倒(自動 車)	衝突・接触 (自動二輪 車)	追突 (自動 車)	転倒 (自転 車)	誤嚥・ 誤飲	鋭利なモノ との接触	横転・転落 (自動車)
0-4	11	9	3	4			2		14		1
5-9	9	6	6	3		1	1		1	1	1
10-14	10	2	2	3			1	2		2	
15-19	2		2	4	5	8	1	4		3	
20-24	7	3	6	1	9	3	4	1		1	1
25-29	2		7	1	2	2	3	1		1	1
30-34	3	1	5	1	3	2				2	1
35-39	4		3		5	2	1			1	
40-44	4	2	6	3	3	2	3	4			2
45-49	4		6	1	1	4	3	3		3	4
50-54	9	9	2	2	2	6	2				1
55-59	9	3	1		3		3				1
60-64	11	7	6	5	1	1	1	1		1	1
65-69	33	9	1	4	1	1	1	1		1	2
70-74	49	10	7	5		2	3	4	1	2	
75-79	64	15	7		1	1		2	2		2
80-84	74	12	1	2	1			2	4	3	
85-89	73	9	2		1						1
90-94	49	4		1				1	2		1
95-99	14	1									
100-104	3										

(空白)			1								
合計	444	102	74	40	38	35	29	26	24	21	20

	まれ 刺され・咬	き込まれ 挟まれ・巻	衝突・接触 (自転車)	故意による 中毒	接触・衝突 (ヒト)	合計
0-4		1				45
5-9		1	2			32
10-14	1		3			26
15-19		1	2			32
20-24			1	3	1	41
25-29			2	4		26
30-34		1		1	1	21
35-39		2				18
40-44		1		4		34
45-49		1				30
50-54	2	2		1	1	39
55-59	3				1	24
60-64		2	2			39
65-69	2	2	1		3	62
70-74	3	2	2	1	1	92
75-79	5	1	1		1	102
80-84					2	101
85-89					2	88
90-94	1					59
95-99						15
100-104						3
(空白)					1	2
合計	17	17	16	14	14	931

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	2234.778 ^a	882	.000
尤度比	1164.245	882	.000
有効なケースの数	1032		

a. 916 セル (96.8%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .00 です。

- 「一般負傷」の受傷機転は「転倒」が最も多く「転落」が続く。
- 「交通事故」は、「自動車」の衝突・接触が最も多く、「自動二輪」の「転倒」「衝突・接触」が続く。
- 「自損行為」については、「故意による中毒」が最も多く、「故意による絞首」がく。(前年は、故意による絞首が最も多かった)

表 31 事故種別×受傷機転(上位 15)

	一般負傷	交通事故	労働災害	自損行為	運動競技	火災	加害	不詳	合計
転倒（ヒト）	423	8	9		5				445
転落（ヒト）	92	1	9						102
衝突・接触（自動車）		74							74
モノとの接触	26		7		7				40
転倒（自動二輪）		37			1				38
衝突・接触（自動二輪）		35							35
追突（自動車）		29							29
転倒（自転車）		26							26
誤嚥・誤飲	24								24
鋭利なモノとの接触	17		4						21
横転・転落（自動車）		20							20
挟まれ・巻き込まれ（ヒト）	6	2	9						17
刺され・咬まれ	17								17
衝突・接触（自転車）		16							16
故意による中毒				14					14
接触・衝突（ヒト）		14							14
故意による絞首				13					13
無理な頑張り	9		2		2				13
不詳	7	1		1	1			1	11
故意による鋭利なモノとの接触				8					8
熱・高温物質への暴露	7								7
煙・火・火災への暴露						7			7
ヒトとの接触					7				7
衝突（ヒト）		3	1						4
故意による飛び込み・飛び降り				4					4
接触・衝突（自転車）		3							3
その他	3								3
横転・転落（自動二輪）		2							2
有害物質の暴露			2						2
追突（自動二輪）		2							2
暴力（殴打）							2		2
不詳（自動二輪）		1							1
暴力（蹴られ）							1		1
接触（スケートボード）		1							1
挟まれ・巻き込まれ（自転車）		1							1
轢かれ（ヒト）		1							1
横転・転落（トラクター）		1							1
転倒（車いす）	1								1
落下物との接触	1								1
横転・転落（ジェットスキー）					1				1
轢かれ（自転車）		1							1
挟まれ・巻き込まれ（自動二輪）		1							1
飛び降り	1								1
合計	634	280	43	40	24	7	3	1	1032

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	4735.196 ^a	301	.000
尤度比	1713.039	301	.000
有効なケースの数	1032		

a. 319 セル (90.6%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度は .00 です。

- 受傷因子 (何でケガをしたのか) を事故種別ごとにみると、「一般負傷」、「不詳」が非常に多い。これは受傷機転として一番多い「転倒」の際に「何でケガをしたのか」についての記載が少ないことに起因している。
- 「交通事故」は、相手方が自動車の事故でのケガが多い。
- 「自損行為」は「処方薬」を用いる場合最も多く、医療機関を受診している方が処方された睡眠薬等を用いている。

なお、ここでは薬などを服用したうえで刃物等で自損行為に至ったケースは含まれていない (その場合は、間接機転に記録)。

表 32 直接受傷因子(上位 10) × 事故種別

	一般 負傷	交通 事故	労働 災害	自損 行為	運動 競技	火災	加害	不詳	合計
不詳	423	80	9	6	10			1	529
自動車	6	159	4						169
階段	22								22
家具(ベッド)	16								16
家具(イス)	13								13
道路脇・側溝	6	4							10
電柱		9							9
脚立	9								9
処方薬				9					9
蜂	8								8
競技者					7				7
煙・火・火炎						7			7
水路	5	2							7
遊具	7								7
窓・ドア	6				1				7
剃刀・ナイフ	1			6					7
石垣・塀	4	1	1						6
ガードレール		6							6
割れ金属・陶器・ガラス等	4			2					6
=====									
合計	634	280	43	40	24	7	3	1	1032

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	4641.530 ^a	777	.000
尤度比	1320.775	777	.000
有効なケースの数	1032		

a. 879 セル (98.1%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .00 です。

- 「間接受傷機転 (直接機転を引き起こした要因)」を「事故種別」で見ると、「一般負傷」では「躓き」や「バランスを崩した」場合が最も多。
- 「交通事故」については、「運転誤り」が多い。
- 「自動二輪」や「自動車」は、「運転誤り」に加えて「衝突・接触」も多くなっている。

表 33 間接受傷機転×事故種別

	一般負傷	交通事故	自損行為	労働災害	運動競技	火災	加害	不詳	合計
不詳	231	165	39	33	18	7	3	1	497
躓き	144			2	1				147
バランス崩す(めまい、ふらつき、足のもつれ等)	120			3	1				124
運転誤り(自動二輪)		25			1				26
運転誤り(自転車)		22							22
運転誤り(自動車)		18							18
ヒトとの接触(競技者)					3				3
ヒトとの接触(同僚)				1					1
モノとの接触(電柱)	1								1
滑る	1								1
滑る(河川)	1								1
滑る(階段)	9								9
滑る(床)	71			3					74
滑る(水路)	1								1
滑る(段差)	3								3
滑る(地面)	13								13
滑る(道路)	8								8
滑る(不詳)	3								3
故意による中毒			1						1
衝突・接触(自動二輪)		14							14
衝突・接触(自転車)		6							6
衝突・接触(自動車)		12							12
衝突・接触(ヒト)	2	3							5
追突(自転車)		1							1
追突(自動車)		10							10
追突(自動二輪)		1							1
転倒(ヒト)	1								1
転倒(自転車)		2							2
転倒(自動二輪)		1							1
転落(ヒト)	2								2
踏み外す(脚立・台)	3								3

無理な頑張り	3								3
落下物との接触	1								1
力が抜ける	2								2
踏み外す(階段・段差)	11		1						12
踏み外す(高所)	1								1
意識消失	1								1
引っ張られ(犬)	1								1
合計	634	280	40	43	24	7	3	1	1032

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	768.171 ^a	266	.000
尤度比	743.337	266	.000
有効なケースの数	1032		

a. 287 セル (92.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .00 です。

- 受傷時の行動は、「一般負傷」及び「自損行為」では、「不詳」がほとんどを占める
- 「一般負傷」については、「不詳」以外では、「歩行中」、階段等の「昇降時」などが多い
- 「交通事故」は、自動車や自動二輪、自転車等での「走行中」が多い。

表 34 受傷時の行動×事故種別

	一般負傷	交通事故	労働災害	自損行為	運動競技	加害	火災	不詳	合計
不詳	316	9	1	38		1	3	1	369
走行中	1	161			1				163
歩行中	71	13	1						85
作業中	16		23				1		40
昇降時(階段)	36			1					37
走行中(相手右折)		23							23
飲食中	22								22
遊び中(不詳)	19								19
起床・離床時	15								15
着席・起立	15								15
歩行中(横断)	1	12							13
用足し	12								12
停車時(信号)		12							12
作業中(伐採・選定)	11								11
停車時		11							11
走行中(相手左折)		10							10
乗車・降車	8	1							9
清掃中	9								9
運動中(サッカー)	1				7				8
作業中(草刈・草ひき)	8								8
入浴中	8								8
遊び中(遊具)	6								6
走行中(右折)		6							6
走行中(左折)		6							6

走行中（追い越し）		5						5
走行中（カーブ）		5						5
作業中（荷物持ち上げ・降ろし）	1		3					4
着替え中	4							4
運動中（ソフトボール）					4			4
就業中		1	2				1	4
調理中	4							4
運動中（ゴルフ）	3							3
家事作業	2			1				3
作業中（運搬）			3					3
作業中（清掃）	1		2					3
移乗時（車いす）	3							3
作業中（解体）			3					3
買い物中	3							3
就寝中	3							3
散歩中	3							3
走る	2							2
家事（洗濯）	2							2
余暇活動	1				1			2
抱く・おんぶ	2							2
運動中（野球）					2			2
消火活動							2	2
作業中（積載）			2					2
昇降時（踏み台等）	2							2
介護作業	2							2
遊び中（スケートボード）	2							2
運動中（陸上）	1				1			2
走行中（転回）		2						2
運動中（ラグビー）					2			2
ケンカ・口論						2		2
作業中（農作業）	1		1					2
農作業	1	1						2
運動中（バスケットボール）					1			1
運動中（跳び箱）					1			1
作業中（収穫）	1							1
遊び中（プレイボード）	1							1
遊び中（スケーター）	1							1
移動中（歩行器）	1							1
運動中（ソフトバレー）					1			1
移動中（車いす）	1							1
歩行時	1							1
歩行中（猫車）	1							1
運動中（柔道）					1			1
昇降時（ハシゴ）	1							1
運動中（フットサル）					1			1
避難訓練中			1					1
走行中（2人乗り）		1						1
作業中（土木）			1					1
遊び中（おもちゃ）	1							1

走行中（追い越され）		1							1
運動中（キックボクシング）					1				1
余暇活動（散歩・ウォーキング）	1								1
遊び中（キックスケーター）	1								1
運動中（不詳）	1								1
離床時	1								1
余暇活動（キャンプ）	1								1
歩行	1								1
歩行中（手押し車）	1								1
合計	634	280	43	40	24	3	7	1	1032

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ 2 乗	3547.092 ^a	567	.000
尤度比	1549.180	567	.000
有効なケースの数	1032		

a. 625 セル（95.3%）は期待度数が 5 未満です。最小期待度は .00 です。

1) 一般負傷

- 「一般負傷」の受傷機転で最も多いのは「転倒」で、その受傷因子はほとんどが「不詳」。
- 2 番目に多い「転落」は、「階段」「ベッド」からが多い。
- 「モノとの接触」は、「ベッド」が多くみられる
- 「刺され・咬まれ」については、「蜂」によるものが多い。

表 35 一般負傷の受傷機転(上位 10) × 受傷因子(上位 10)

	転倒(ヒト)	転落(ヒト)	モノとの接触	刺され・咬まれ	誤嚥・誤飲	無理な頑張り	接触	鋭利なモノとの	不詳	挟まれ・巻き込まれ(ヒト)	熱・高温物質への暴露	上位10.の合計
不詳	397	4	2		1	8			7			419
階段		22										22
家具(ベッド)		12	4									16
家具(イス)	4	9										13
脚立		9										9
蜂				8								8
遊具		5	2									7
道路脇・側溝	1	5										6
窓・ドア	1		3							2		6
自動車		4								2		6
水路		5										5
のこぎり(電動含む)							5					5
食物(不詳)					5							5
建築物(柱)	2		2									4
ムカデ				4								4

石垣・塀	1	3									4
割れ金属・陶器・ガラス等	1						3				4
床	3					1					4
食物(お菓子)					4						4
上位 10 の合計	410	78	13	12	10	9	8	7	4		551

【転倒】

- 子どもは遊んでいる最中、高齢者は歩行中や起床・離床時の転倒が多い。

表 36 転倒の受傷時の行動(上位 10)

	不 詳	歩 行 中	段 昇 降 時 (階 階)	時 起 床 ・ 離 床	着 席 ・ 起 立	用 足 し	入 浴 中	(不 詳) 遊 び 中	清 掃 中	乗 車 ・ 降 車	上 位 10. の 合 計
0-4	6							3			9
5-9	6							1			7
10-14			2		1			1			4
15-19											
20-24	2	1	1			1					5
25-29		1									1
30-34	1						1				2
35-39	2		1								3
40-44	2	1									3
45-49	3										3
50-54	4		1					1		2	8
55-59	4	1			1	1					7
60-64	6	2	1				1				10
65-69	14	8	1		3		1			2	29
70-74	30	8	1	1	1					1	42
75-79	42	8		2	1	2	3				58
80-84	40	18	2	2	1	3			3		69
85-89	52	11	1	2							66
90-94	30	5	2	2	1	2			2		44
95-99	10	1		1	1						13
100-104	3										3
総計	257	65	13	10	10	9	6	6	5	5	386

【転落】

- 転落は、子どもも高齢者も「階段」や「ベッド」がみられる。
- 高齢者については、「脚立」からの転落もみられる。

表 37 転落の受傷因子(上位 10)年齢層

	階段	家具 (ベッド)	脚立	家具 (イス)	自動車	遊具	側溝 道路脇・	水路	不詳	石垣・塀	梯子	合計 上位 10.
0-4	2	2		1					3			8
5-9					1	3				2		6
10-14						2						2
20-24	1							1				2
30-34					1							1
40-44							1					1
50-54	2	3		2	1					1		9
55-59	1				1						1	3
60-64	1	1	1	1	1							5
65-69	5			1							2	8
70-74	4		1	1	1		1					8
75-79	3	2	3					3	1			12
80-84	3	2	2	1			1	1				10
85-89		1	1	2	1		1					6
90-94			1				1					2
95-99		1										1
総計	22	12	9	9	7	5	5	5	4	3	3	84

- 転落時の行動をみると、子どもは階段等の昇降や遊び中、50歳台以上は階段の昇降あるいは作業中が多い。

表 38 転落時の行動(上位 10)

	昇降時(階段)	作業中	不詳	着席・起立	採・選定 作業中(伐)	歩行中	遊具 遊び中(不詳)	遊具 遊び中(遊)	時 起床・離床	清掃中	総計
0-4	2		1				1				4
5-9				1			3	2			6
10-14								2			2
20-24	1	1									2
30-34		1									1
40-44		1				1					2
50-54	2		1	1				3			7
55-59	1	2									3
60-64	1	1	2	1	1						6
65-69	5	3									8
70-74	4	3	2								9
75-79	3	2	5		3						13

80-84	3	4	2							1	10
85-89			5	2		1				1	9
90-94		1				2				1	4
95-99			1								1
総計	22	19	19	5	4	4	4	4	3	3	87

2) 交通事故

- 自動車乗車時に「自動車」と「衝突」したことによる受傷が最も多いものの、件数は前年からは減少している。
- 次に多いのは「自動二輪」の「転倒」だが、受傷因子は全て「不詳」となっている。

表 39 交通事故の受傷機転(上位 10)と受傷因子(上位 8)

	自動車 衝突・接触(自 動車)	輪 転倒(自動二 輪)	動 衝突・接触(自 動二輪)	追突(自動車)	転倒(自転車)	横転・転落(自 動車)	転車 衝突・接触(自 転車)	ト 接触・衝突(ヒ ト)	転倒(ヒト)	衝突(ヒト)	転車 衝突・接触(自 転車)	上位10. の合計
自動車	57	4	28	29			16	12	1	2	2	151
不詳		32			27	13			6			78
電柱	7		2									9
ガードレール	4		1								1	6
自動二輪			2					1				3
道路脇・側溝						3						3
建築物(不詳)	2											2
自転車									1	1		2
標識	2											2
竹藪						2						2
縁石			1									1
列車								1				1
建築物(壁)	1											1
電灯			1									1
田んぼ・畦						1						1
水路						1						1
石垣・塀	1											1
上位8の合計	74	36	35	29	27	20	16	14	8	3	3	265

3) 運動競技

- 「運動競技」時の受傷は、人やモノとの接触が最も多い。「人」は「競技者」、モノは「運動具」で、とくに「ボール」が多い。これらの傾向は前年と同様。

- 「直接機転」が「ヒトとの接触」の場合、何が原因で接触したのかについての記載がなく「不詳」となっている。
- 直接機転が「転倒」の場合、「ヒトとの接触」によって転倒した事例が3件あり、24件のうち10件はヒトとの接触によって受傷している。
- 前年にみられた「熱中症」が2020年にはみられなかった。

表 40 運動競技の受傷機転(全て)×受傷因子(上位5)

	不詳	競技者	運動用具 (ボール)	運動用具 (跳び箱)	運動用具 (バット)	窓・ドア	合計
ヒトとの接触		7					7
モノとの接触			4	1	1	1	7
転倒(ヒト)	5						5
無理な頑張り	2						2
不詳	1						1
横転・転落(ジェットスキー)	1						1
転倒(自動二輪)	1						1
合計	10	7	4	1	1	1	24

表 41 (参考) 運動競技の受傷機転(全て)×受傷因子(上位5) (2019年)

2019年	不詳	競技者	スポーツ用具 (ボール)	(脱水症・熱中症)	その他	合計
無理な頑張り	4			3	3	10
転倒(ヒト)	5	2				7
モノとの接触(ヒト)			5			5
ヒトとの接触		4				4
接触(ヒト)		2				2
不詳(ヒト)	1					1
転落(ヒト)	1					1
合計	11	8	5	3	3	30

表 42 運動競技の受傷機転×間接機転

	不詳	ヒトとの接触 (競技者)	バランス 崩す	運転誤り (自動二輪)	躓き	合計
ヒトとの接触	7					7
モノとの接触	6		1			7
転倒(ヒト)	1	3			1	5
無理な頑張り	2					2
不詳	1					1
横転・転落(ジェットスキー)	1					1
転倒(自動二輪)				1		1
合計	18	3	1	1	1	24

(*) めまい、ふらつき、足のもつれ等

- 「ヒトとの接触」は、サッカー及びラグビーなどの競技中に他の競技者との接触である。
- 「モノとの接触」は、球技がほとんどを占めている。

表 43 運動競技の受傷機転×受傷時の活動

	サッカー	ソフトボール	野球	ラグビー	走行中	陸上	跳び箱	柔道	ソフトバレー	余暇活動	キックボクシング	フットサル	バスケットボール	合計
ヒトとの接触	3			2					1		1			7
モノとの接触	1	3	1				1						1	7
転倒(ヒト)	3					1						1		5
無理な頑張り		1	1											2
不詳								1						1
横転・転落(ジェットスキー)										1				1
転倒(自動二輪)					1									1
合計	7	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	24

4) 労働災害

- 労働災害では、「転倒」が最も多く、「転落」、「モノとの接触」、「機械への」 「挟まれ・巻き込まれ」が続く。
- 転倒した際に何でケガをしたのかは「不詳」の場合が多いが、「転落」については「自動車(荷台含む)」、「梯子」からのである。
- 「モノとの接触」による受傷について、接触したのは「機械」や「重量物」及び「落下物」によるものとなっている。

表 44 労働災害の受傷機転と受傷因子(上位5)

	不詳	機械	自動車	重量物	梯子	落下物	化学薬品	合計
転倒(ヒト)	8							8
転落(ヒト)			3		2			5
モノとの接触		1		1		2		4
挟まれ・巻き込まれ(ヒト)		2		1				3
無理な頑張り	1			1				2
有害物質の暴露							2	2
鋭利なモノとの接触		2						2
衝突(ヒト)			1					1
合計	9	5	4	3	2	2	2	27

表 45 (参考)労働災害の受傷機転(上位 10)と受傷因子(上位5) (2019 年)

2019 年	不詳	機械	車両	材木	重機	屋根・ベランダ	ハチ	脚立	合計
転倒(ヒト)	9								9
転落(ヒト)	1		2		1	2		2	8
挟まれ・巻き込まれ(ヒト)		5							5
咬まれ・刺され							2		2
鋭利なモノとの接触		2							2
モノとの接触(ヒト)				2					2
踏まれ・轢かれ					1				1
無理な頑張り	1								1
接触(ヒト)									
高温物質への暴露									
有害物質への暴露									
合計	11	7	2	2	2	2	2	2	30

- 労働災害の間接機転は「不詳」が最も多いが、「転倒」に至った要因として、「不詳」以外には、「滑る(床)」、「躓き」などがみられる。

表 46 労働災害の受傷機転×間接機転

	不詳	バランス崩す	滑る(床)	躓き	ヒトとの接触(同僚)	足を踏み外す(階段・段差)	合計
転倒(ヒト)	1	1	3	2	1	1	9
転落(ヒト)	8	1					9
挟まれ・巻き込まれ(ヒト)	9						9
モノとの接触	7						7
鋭利なモノとの接触	3	1					4
無理な頑張り	2						2
有害物質の暴露	2						2
衝突(ヒト)	1						1
合計	33	3	3	2	1	1	43

※ めまい、ふらつき、足のもつれ等

表 47 労働災害の直接機転と受傷時の行動

	作業中(その他)	作業中(解体)	作業中(降ろし)	作業中(荷物持ち上げ)	作業中(運搬)	作業中(清掃)	就業中	作業中(積載)	不詳	避難訓練中	作業中(農作業)	歩行中	作業中(土木)	合計
転落(ヒト)	8	1												9
転倒(ヒト)	2				2	1	1		1	1		1		9
挟まれ・巻き込まれ(ヒト)	4				1			2			1		1	9
モノとの接触	4	2	1											7
鋭利なモノとの接触	3					1								4
無理な頑張り				2										2
有害物質の暴露	2													2
衝突(ヒト)							1							1
合計	23	3	3	3	3	2	2	2	1	1	1	1	1	43

5) 自損行為

- 受傷機転については、前年は「絞首」が最も多かったが、2020年は「故意による中毒」が最も多い。
- 受傷因については、「中毒」では「処方薬」が最も多く、「練炭」による一酸化炭素中毒もみられる。
- 「間接機転」は、ほとんどが「不詳」だが、服薬の後に刃物などによる自損行為が1件みられた。
- 「自損行為」の際に何をしているかについては記載がなく、全て「不詳」となっている。

表 48 自損行為の受傷機転×受傷因子

	処方薬	不詳	剃刀・ナイフ	練炭	電気コード	ロープ	割れ金属・陶器・ガラス等	建築物(高層階)	紐	池	タオル	たばこ(加熱式含む)	合計
故意による中毒	9			4								1	14
故意による絞首		4			3	3			2		1		13
故意による鋭利なモノとの接触			6				2						8
故意による飛び込み・飛び降り		1						2		1			4
不詳		1											1
合計	9	6	6	4	3	3	2	2	2	1	1	1	40

表 49 (参考)自損行為の受傷機転×受傷因子(2019年)

2019年	不詳	医薬品	刃物(ナイフ・カッター・剃刀・包丁)	縄	電気コード	合計
故意による絞首	4			2	2	8
故意による中毒		7				7
故意による鋭利なモノとの接触	1		4			5
転倒(ヒト)	1					1
故意による飛び降り	1					1
合計	7	7	4	2	2	22

表 50 自損行為の受傷機転×間接機転

	不詳	故意による中毒	合計
故意による中毒	14		14
故意による絞首	13		13
故意による鋭利なモノとの接触	7	1	8
故意による飛び込み・飛び降り	4		4
不詳	1		1
合計	39	1	40

表 51 自損行為の受傷機転×受傷時の行動

	不詳	合計
故意による中毒	14	14
故意による絞首	13	13
故意による鋭利なモノとの接触	8	8
故意による飛び込み・飛び降り	4	4
不詳	1	1
合計	40	40

6) 加害

- 「加害」による受傷は、前年に比べて大きく減少している。いずれも道具等を用いず、殴打や蹴られたりしての受傷です。
- 加害者は、3人のうちの2人は家族となっている。
- 間接機転はすべて「不詳」であり、3件に2件は、受傷時に「ケンカ・口論」をしていた。

表 52 加害の受傷機転×受傷因子

	ヒト(兄弟姉妹)	ヒト(不詳)	ヒト(息子・娘)	合計
暴力(殴打)		1	1	2
暴力(蹴られ)	1			1
合計	1	1	1	3

表 53 (参考)加害の受傷機転×受傷因子(2019年)

2019年	不詳	同居人	友人・知人	他人(客)	家族(息子・娘)	壁・柱	家族(夫)	家具(テーブル)	家族(兄弟・姉妹)	他人(不詳)	他人(強盗)	合計
加害(暴力)		1	1	1			1				1	5
加害(不詳)	1		1	1	1							4
加害(モノによる)		1						1	1			3
モノとの接触(ヒト)						1		1				2
不詳(ヒト)	1											1
合計	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	15

表 54 加害の受傷機転×間接機転

	不詳	合計
暴力(殴打)	2	2
暴力(蹴られ)	1	1
合計	3	3

表 55 加害の受傷時の行動

	ケンカ・口論	不詳	合計
暴力(殴打)	1	1	2
暴力(蹴られ)	1		1
合計	2	1	3

7) 火災

- 2020 年は 7 件で、前年の 3 件から倍以上の増加
- 火災による受傷は、全て「煙・火・火炎」による暴露である。
- 「間接機転」は、すべて「不詳」となっている。
- 受傷時の行動は、「不詳」以外では「消火活動」が 2 件、「作業中」と「就業中」がそれぞれ 1 件となっている。

表 56 火災の受傷機転×受傷因子

	煙・火・火炎	合計
煙・火・火炎への暴露	7	7
合計	7	7

表 57 (参考)火災の受傷機転×受傷因子(2019 年)

2019 年	煙・火・火炎	合計
煙・火・火炎への暴露	3	3
合計	3	3

表 58 火災の受傷機転×間接機転

	不詳	合計
煙・火・火炎への暴露	7	7
合計	7	7

表 59 火災の受傷機転×受傷時の行動

	不詳	消火活動	作業中	就業中	合計
煙・火・火炎への暴露	3	2	1	1	7
合計	3	2	1	1	7

8) 水難

- 「水難」による救急搬送はなかった。

(7) その他

救急搬送事例のなかから、日本あるいは亀岡市における特徴的な傾向をみるために、いくつかのキーワードをもとに分析した。

1) 浴室における受傷

- 「浴室」での受傷は23件あり、女性は子どもと高齢者、男性は高齢者に加えて成年もみられた。

表 60 浴室での受傷の年齢層×性別

	女	男	計合
5-9	2		2
25-29	2		2
30-34		1	1
55-59		1	1
60-64		1	1
65-69	1		1
70-74	1	1	2
75-79	2	3	5
80-84	1	1	2
85-89	1	2	3
90-94	1		1
95-99	1		1
100-104	1		1
合計	13	10	23

- 「受傷機転」は「転倒」が最も多く、「間接機転」は「滑る」が最も多い。そのほかにも、ふらつき等によってバランスを崩したり、躓いて転倒した事例もみられた。
→他の自治体等で多くみられる「溺れ・溺水」の記録はない。
- このなかで飲酒が認められたのは、転倒のうちの2件であった。

表 61 浴室での受傷の受傷機転×間接機転

	滑る(床)	不詳	す(＊) バランス崩	躓き	接触 落下物との	合計
転倒(ヒト)	8	1	5	3		17
故意による中毒		2				2
無理な頑張り		1				1
不詳		1				1
モノとの接触		1				1
鋭利なモノとの接触					1	1
合計	8	6	5	3	1	23

(＊) めまい、ふらつき、足のもつれ等

- 浴室での受傷は、「一般負傷」と「自損行為」がみられた。
- 「一般負傷」はほとんどが「転倒」で、主に子どもと高齢者であった。
- 「自損行為」は20歳台による「故意による中毒」と50歳台の「不詳」となっている。

表 62 浴室での受傷機転×年齢層

	一般負傷					自損行為			合計
	転倒 (ヒト)	無理な 頑張り	モノとの 接触	鋭利なモノ との接触	計 一般負傷	故意によ る中毒	不詳	計 自損行為	
5-9	1			1	2				2
25-29						2		2	2
30-34	1				1				1
55-59							1	1	1
60-64	1				1				1
65-69	1				1				1
70-74	2				2				2
75-79	5				5				5
80-84	1		1		2				2
85-89	3				3				3
90-94	1				1				1
95-99	1				1				1
100-104		1			1				1
合計	17	1	1	1	20	2	1	3	23

表 63 (参考)浴室での受傷機転×年齢層(2019年)

2019年	転倒(ヒト)	無理な頑張り	鋭利なモノとの接触	モノとの接触	合計
0-4	2				2
45-49	2		1		3
50-54	1				1
55-59				1	1
60-64		1			1
65-69	2				2
70-74	3				3
75-79	1				1
80-84	3		1		4
85-89	1				1
90-	2	1			3
不詳	1				1
合計	18	2	2	1	23

2) 飲酒がみられた受傷（疑いも含む）

- 飲酒がみられた事例は、前年の 26 件から増えて 35 件となっている。
- 性別で見ると、男性は同じ件数だが、女性が前年の 1 件から 10 件に増加している。
- 年齢で見ると、高齢の男性の受傷が多くみられる。

表 64 飲酒が見られた受傷の年齢層×性別

	女	男	合計
20-24	1	1	2
30-34		1	1
35-39		1	1
40-44	2	2	4
45-49		1	1
50-54	2		2
55-59	1		1
60-64	1	3	4
65-69	1	5	6
70-74	2	2	4
75-79		6	6
80-84		2	2
85-89		1	1
合計	10	25	35

表 65 (参考)飲酒がみられた受傷の年齢層×性別(2019 年)

	女	男	合計
25-29		1	1
35-39		1	1
40-44		4	4
45-49	1		1
50-54		2	2
55-59		2	2
60-64		2	2
65-69		3	3
70-74		2	2
75-79		6	6
80-84		1	1
85-89		1	1
合計	1	25	26

- 飲酒（疑いも含む）がみられた受傷を「年齢層」ごとに「直接機転」で見ると、いずれの年齢層においても「転倒」が多い。なかでも、高齢者の「転倒」が多い。
- 続いて多い「転落」については、60 歳以上となっている。「自損行為」については、いずれも 40～44 歳となっている。

表 66 飲酒事例の受傷機転×年齢層

	一般負傷					自損行為			合計
	転倒 (ヒト)	転落 (ヒト)	不詳	モノとの接触	一般負傷計	中毒 故意による	故意による鋭利 なモノとの接触	自損行為計	
20-24	2				2				2
30-34				1	1				1
35-39			1		1				1
40-44	1				1	2	1	3	4
45-49	1				1				1
50-54	2				2				2
55-59	1				1				1
60-64	2	2			4				4
65-69	5	1			6				6
70-74	2	2			4				4
75-79	5	1			6				6
80-84	2				2				2
85-89	1				1				1
合計	24	6	1	1	32	2	1	3	35

(※) 該当者がいない年齢層は表示していません。

表 67 (参考) 飲酒事例の受傷機転×年齢層(2019年)

2019年	転倒 (ヒト)	転落 (ヒト)	接触 (ヒト)	転落 (自転車)	不詳 (ヒト)	無理な 頑張り	モノとの接 触	転倒 (自転車)	合計
25-29							1		1
35-39	1								1
40-44	1	1	1		1				4
45-49				1					1
50-54	1							1	2
55-59	1	1							2
60-64	2								2
65-69	1	1				1			3
70-74	1	1							2
75-79	5	1							6
80-84	1								1
85-89	1								1
合計	15	5	1	1	1	1	1	1	26

(※) 該当者がいない年齢層は表示していません。

- 受傷する前の間接機転を併せてみると、記載がなく「不詳」のケースが多い。そのなかで、「転倒」については、「滑る」か「バランスを崩す」「躓く」場合がみられる。

表 68 飲酒事例の受傷機転×間接機転

	不詳	滑る(床)	(*) バランス崩す	滑る(道路)	滑る(階段)	滑る(不詳)	接触(ヒト)	足を踏み外す (階段・段差)	躓く	合計
転倒(ヒト)	7	5	3	2		1	1		5	24
転落(ヒト)	4				1			1		6
故意による中毒	2									2
故意による鋭利なモノとの接触	1									1
不詳	1									1
モノとの接触			1							1
合計	15	5	4	2	1	1	1	1	5	35

(*) めまい、ふらつき、足のもつれ等

- 飲酒が認められた事例の受傷機転は、「不詳」が多いが、それ以外をみると「転倒」が最も多く、躓いたり、滑ったり、バランスを崩したことで転倒する場合がみられる。

表 69 飲酒がみられた受傷の「機転(間接・直接)」と受傷因子

	不詳	階段	側溝・水路	自動車	塀・フェンス	畑・田んぼ	合計
不詳	8	1				1	10
転倒(ヒト)	6						6
転落(ヒト)		1				1	2
不詳(ヒト)	1						1
転倒(自転車)	1						1
躓き	3	2					5
転倒(ヒト)	3						3
転落(ヒト)		2					2
歩行中	3			1			4
転倒(ヒト)	2						2
無理な頑張り	1						1
接触(ヒト)				1			1
バランス崩す(*)	2		1				3
転倒(ヒト)	2						2
転落(ヒト)			1				1
移動中					1		1
モノとの接触(ヒト)					1		1
運転誤り			1				1
転落(自転車)			1				1
滑り	1						1
転倒(ヒト)	1						1
着座・立座時	1						1
転倒(ヒト)	1						1
合計	18	3	2	1	1	1	26

(*) めまい、ふらつき、足のもつれ等含む

3) 認知症

- 搬送された方のうち認知症がある方は8人で、いずれも後期高齢者で、女性が男性よりも多くみられる。

表 70 認知症ケースの年齢層×性別

	女	男	合計
75-79		1	1
85-89	6		6
90-94		1	1
合計	6	2	8

表 71 認知症ケースの年齢層×受傷機転

	転落 (ヒト)	転倒 (ヒト)	不詳	誤嚥・ 誤飲	合計
75-79				1	1
85-89	3	3			6
90-94			1		1
合計	3	3	1	1	8

- 受傷した場所、「転落」については「高齢者施設」、「転倒」は「自宅」及び「親戚・知人宅」、「誤嚥・誤飲」は「自宅」となっている。

表 72 認知症ケースの受傷場所(大項目・中項目)×受傷機転

	転落(ヒト)	転倒(ヒト)	不詳	誤嚥・誤飲	合計
住宅		2	1	1	4
自宅		1	1	1	3
親戚・知人宅		1			1
公衆出入場所	3				3
福祉施設(高齢者)	3				3
道路		1			1
府道		1			1
合計	3	3	1	1	8

消防団員等福祉共済の給付種別について

1 消防団員等福祉共済制度について

この福祉共済制度は、地域の安全安心を担っている消防団員等が安心して消防防災活動を行うことができるようにするための共済として、全国の消防団員等を対象に加入者が死亡した場合や事故により負傷し、若しくは疾病により障害の状態に該当した場合や入院時に保障を行い、さらに死亡又は障害が残った場合等が公務による場合は、弔慰金等の給付を行っています。

2 給付の種類について

(1) 遺族援護金

加入者が死亡した場合

(2) 弔慰金・弔慰救済金

加入者が公務により死亡した場合

(3) 保育援護金

加入者が公務により死亡した場合、又は、重度障害（障害の等級第1級又は第2級）の状態となった場合において、その加入者に未就学の被扶養者がいるとき

(4) 生活援護金・障害見舞金

加入者が、事故により負傷し若しくは疾病にかかり治ったときに障害の等級第1級から第12級までの状態に該当した場合

(5) 重度障害見舞金・見舞金

加入者が、事故により負傷し若しくは疾病にかかり治ったときに障害の等級第1級から第9級までの状態に該当した場合で、その原因が公務によるものであるとき

(6) 入院見舞金

加入者が、事故又は疾病を直接の原因としてその日から180日以内に病院又は診療所にその原因を問わず、加入年度内に通算して7日以上入院した場合

※ 加入者が公務により死亡した場合又は重度障害の状態となった場合、その職務の執行状況に応じて次の区分により弔慰救済金又は見舞金を付加して支給します。

ア 災害現場において危険を予想し得るにかかわらず敢然これを冒してその職務を執行した場合 ➡第1号の付加給付

イ 前号の危険の程度に至らざる災害現場又はこれに準ずべき場所において職務を執行した場合 ➡第2号の付加給付

ウ 災害現場若しくはこれに準ずべき場所に職務執行のため赴かんとし事故にあった場合又は消防訓練等の公務の執行に際し、自己の重大な過失によらない場合 ➡第3号の付加給付

3 共済金額一覧表

区 分	事 由	給付種別			共済金額 (円)	
死 亡	公務・公務外	遺族援護金			1,000,000	
	公 務	弔慰金			23,000,000	
		弔慰救済金	付 加 給 付	1号	10,000,000	
				2号	7,000,000	
				3号	5,000,000	
保育援護金			1人 250,000			
重度障害 (障害の等級 1級又は2級)	公務・公務外	生活援護金			1,000,000	
	公 務	重度障害見舞金			23,000,000	
		見舞金	付 加 給 付	1号	6,000,000	
				2号	4,500,000	
				3号	2,500,000	
保育援護金			1人 250,000			
障 害 (障害の等級 3級～12級)	公務・公務外	障害見舞金	3級又は4級		500,000	
			5級又は6級		300,000	
			7級又は8級		180,000	
			9級又は10級		90,000	
			11級又は12級		60,000	
	公 務	見舞金	付 加 給 付	3 級 ～ 6 級	1号	750,000
					2号	750,000
					3号	500,000
				7 級 ～ 9 級	1号	500,000
					2号	500,000
3号	400,000					
入 院	公務・公務外	入院見舞金 (120日限度) 7日以上入院で1日あたり			1日 1,500	